

經 營 学 部

履 修 要 項

平 成 5 年 度

駒澤大學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(木) 入学式
- 9日(金) } 新生オリエンテーション
- 12日(月) }
- 9日(金) } 在校生身分証明登録
- 16日(金) }
- 9日(金) } 在校生成績発表
- 10日(土) }
- 9日(金) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(土) } 受付(学部2年次生)
- 12日(月) 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)
- 13日(火) }
- 19日(月) } 在校生成績質疑応答
- 13日(火) 前期授業開始
- 20日(火) } 履修届受付(学部・短大)
- 23日(金) } (学部により受付日が異なる)
- 19日(月) }
- 23日(金) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 5月25日(火) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(木) }
- 7月14日(水) } 中間試験及び前期終了定期試験
(授業平常どおり)
- 20日(火) }
- 20日(火) 前期授業最終日
- 21日(水) 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 21日(水) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)
- 25日(日) }
- 23日(金) 前期終了科目定期試験欠試届(追試
験申込)受付締切
- 9月6日(月) } 補講期間
- 10日(金) }

後 期

- 9月16日(木) 後期授業開始
- 16日(木) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)および再試験申込受付
- 17日(金) }
- 24日(金) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
文>・法学部・短大・英文の1年
次生および昭和63年度以前入学の経
済学部の2年次生)
- 30日(木) }

- 24日(金) } 専攻コース指定届受付
- 25日(土) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 25日(土) }
- 10月1日(金) } 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)
- 4日(月) }
- 7日(木) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 15日(金) } 第111回開校記念日(全学休業)
- 27日(水) }
- 29日(金) } 転部・転科試験願書受付
- 25日(月) }
- 29日(金) } 編入学願書受付
- 11月20日(土) } 転部・転科試験
- 12月1日(水) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)
- 10日(金) }
- 5日(日) } 編入学試験
- 20日(月) } 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 20日(月) }
- 24日(金) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)

平成5年

- 1月8日(土) 後期授業再開
- 14日(金) 後期授業最終日
- 17日(月) }
- 26日(水) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 27日(木) }
- 2月3日(木) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 4日(金) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部
の4年次生)
- 4日(金) } 定期試験欠試届受付締切(学部4
年次生・短大生)
- 4日(金) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付
締切(学部1~3年次生)
- 15日(火) }
- 19日(土) } 体育実技IIシーズン・コース(ス
キー)(学部2年次生)
- 17日(木) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 18日(金) }
- 23日(水) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)
- 3月1日(火) }
- 19日(土) } 卒業生名簿発表
- 25日(金) } 卒業式

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業及び学位記の授与 (2)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (3)
2. 外国語科目の履修方法 (5)
3. 保健体育科目の履修方法 (7)
4. 基礎教育科目の履修方法 (8)
5. 専門教育科目の履修方法 (8)
6. 他学部科目の履修方法 (10)
7. 随意科目の履修方法 (12)
8. 再履修科目の履修方法 (12)
 - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (12)
 - ※ 授業科目のコード番号について (13)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (14)
2. 履修届記入上の注意 (15)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (16)
4. 授業時間 (16)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (17)
2. 中間試験 (17)
3. 追・再試験 (17)
4. 受験心得 (18)
5. 成績評価・単位認定 (18)
6. 試験時間 (19)
7. 成績発表 (19)

VI	進級について	(20)
VII	教職課程・資格講座	(21)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 事務室の事務受付時間	(22)
	2. 休 講	(22)
	3. 掲示・連絡	(22)
	4. 問い合わせ	(22)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(23)
	2. 休 学	(23)
	3. 復 学	(23)
	4. 退 学	(24)
	5. 除 籍	(24)
	6. 懲 戒	(24)
	7. 編 入 学	(24)
	8. 再 入 学	(24)
	9. 転部・転科	(24)
	10. 留 学	(25)
	11. 学生氏名・保証人	(25)
	12. 学生番号	(25)
X	既修得単位の認定について	(26)
XI	届書・願書について	(27)
XII	各種証明書取扱い窓口	(28)
	試験実施規程（抜粋）	(29)
	講 義 内 容	(31)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数

1. 卒業に必要な単位数

A. 昭和63年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	32	} 140以上
	社 会 分 野	2	8		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専門教育科目	必 修	3	12	80	
	選 択	17	68		

B. 昭和62年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	16	
	第 2 外 国 語	4	8		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		2	8	8	
専門教育科目	必 修	3	12	78	
	選 択	17	66		

2. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、「学士（経営学）」の学位が与えられる。

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

A. 昭和63年度以降入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	}	合計8科目	32単位
社会分野	2科目	計8単位			
自然分野	2科目	計8単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	}	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	倫 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 （日本国憲法2単位を含む）	4	2科目選択必修	8	}	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。
	社 会 学	4				
	地 理 学	4				
	統 計 学	4				
	文 化 人 類 学	4				
自然分野	自 然 科 学 概 論	4	2科目選択必修	8	}	
	数 学	4				
	心 理 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

B. 昭和62年度以前入学生適用

人文分野	4科目	計16単位	} 合計 9科目 36単位
社会分野	3科目	計12単位	
自然分野	2科目	計8単位	

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ（1年次必修）	4	} 「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	} 36	
	宗教学Ⅱ（2年次必修）	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理学	4				
	文学	4				
社会分野	歴史学	4	} 3科目選択必修	12	} 36	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。
	法学憲法 （日本国憲法2単位を含む）	4				
	社会学（2年次）	4				
	地理学	4				
	統計学（2年次）	4				
自然分野	文化人類学	4	} 2科目選択必修	8	} 36	
	自然科学概論	4				
	数学	4				
	心理学（2年次）	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

なお、第1外国語は英語、第2外国語は他の外国語となる。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	2	4	4	8
計	4	8	4	8	8	16

1年次の履修

6か国語のうち英語ⅠA・ⅠBの2科目と、入学手続の際に指定した英語以外の外国語ⅠA・ⅠBの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語ⅠA	2		ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。ただしⅠAは「英会話Ⅰ(定員40名)」または「英語LLⅠ(定員30名)」に振り替えることができる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語ⅠB	2		
英会話Ⅰ	2		
英語LLⅠ	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語ⅠA	2	文法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語ⅠA・ⅠBの2科目を必修とする。
ドイツ語ⅠB	2	講読	
フランス語ⅠA	2	文法	
フランス語ⅠB	2	講読	
中国語ⅠA	2		
中国語ⅠB	2		
スペイン語ⅠA	2		
スペイン語ⅠB	2		
ロシア語ⅠA	2		
ロシア語ⅠB	2		

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は木曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語（英語と他の1か国語）を、それぞれⅡA・ⅡBの2科目ずつ計4科目8単位必修とする。

第1外国語（英語を2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2	

第2外国語（1年次で履修した英語以外の1か国語を2科目4単位必修）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	
中 国 語 Ⅱ A	2				
中 国 語 Ⅱ B	2				

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスで履修すること。
- ロ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ハ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.12参照）。
- ニ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は木曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において2科目8単位を必修とする。

履修年次	授 業 科 目	単 位	備 考
1 年 次	経 済 学 概 説	4	
	経 営 学 概 説	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

必 修 科 目 (3科目12単位)

1 年 次 必 修			2 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
簿 記 学	4		経 営 学	4	
			会 計 学	4	

選択科目

A. 昭和63年度以降入学生適用（68単位以上）

B. 昭和62年度以前入学生適用（66単位以上）

2年次選択			3・4年次選択			3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
経営史	4		経営労務論	4		会計監査論	4	
経営管理論	4		経営組織論	4		証券市場論	4	
企業形態論	4		経営技術論	4		商業史	4	
プログラミング論	4		経営情報論	4		経済政策	4	
原価計算論	4		経営科学	4		財政学	4	
経済原論	4	休講	情報理論	4		金融論	4	
近代経済学	4		公益企業論	4	休講	国際経済論	4	
日本経済史	4		マーケティング論	4		国際金融論	4	
統計原論	4	休講	商業経営論	4		日本経済論	4	
民法 I	4		保険経営論	4		民法 II	4	
演習 I	4		銀行経営論	4		外書講読	4	
3年次選択			国際経営論	4		4年次選択		
商法 I	4		日本経営史	4		商法 II	4	
演習 II	4		経営統計	4		労働法	4	
3・4年次選択			上級簿記	4		演習 III	4	
経営学史	4	休講	財務会計論	4				
アメリカ経営学	4		管理会計論	4				
経営財務論	4		経営分析論	4				
			税務会計論	4				

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科，他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は，次の要領で履修することができる。

なお，履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち，他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.11参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし，授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は，卒業までに3科目12単位以内とする。

なお，その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に，『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し，『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上，必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお，『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は，教務部⑩番窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に記入し，『履修許可書』を添えて，所定の期日（単位履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は，他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は，『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は，1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は，改めて前項の手続きを経なければならない。

なお，再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.12）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は，所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し，卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開 設 科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	開 設 科	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
禪 学 科	禪 学 特 講 I	4	3・4		社 会 学 科	マスコミュニケーション	4	3・4		
	禪 学 特 講 II	4	3・4			産 業 社 会 学	4	3・4		
	禪 学 特 講 III	4	3・4			都 市 社 会 学	4	3・4		
	禪 学 特 講 IV	4	3・4			社 会 福 祉 発 達 史	4	3・4		
	禪 学 思 想 史	4	3・4			ロシヤ・東欧経済論	4	3・4	※イ	
	哲 学 史	4	3・4			社 会 政 策	4	3・4		
仏 教 学 科	イ ン ド 仏 教 史	4	3・4		経 済 学 科	国 民 所 得 論	4	3・4		
	中 国 仏 教 史	4	3・4			中 国 経 済 論	4	3・4		
	日 本 仏 教 史	4	3・4			ア ジ ア 経 済 論	4	3・4		
	日 用 経 典	4	3・4			中 小 企 業 論	4	3・4		
	仏 教 美 術	4	3・4			教 育 経 済 論	4	3・4		
	現 代 哲 学 概 説	4	3・4			ア メ リ カ 経 済 論	4	3・4		
国 文 学 科	上 代 文 学	4	3・4		商 学 科	商 業 政 策	4	3・4		
	中 世 文 学	4	3・4			買 易 論	4	3・4		
	近 世 文 学	4	3・4		法 律 学 科	行 政 法 II	4	3・4		
	近 代 文 学	4	3・4			民 法 IV (1)	4	3・4		
	中 国 文 学	4	3・4			民 法 IV (2)	4	4		
英 米 文 学 科	英 文 学 特 講 I	4	3・4		政 治 学 科	比 較 憲 法	4	3・4		
	英 文 学 特 講 II	4	3・4			地 方 自 治 法	4	3・4	休 講	
	英 文 学 特 講 III	4	3・4			経 済 法	4	3・4		
	英 文 学 特 講 IV	4	3・4			国 際 関 係 論	4	3・4		
	英 文 学 特 講 V	4	3・4			西 洋 政 治 史	4	3・4		
	英 文 学 特 講 VI	4	3・4			宣 伝 広 告 論	4	3・4		
	英 米 演 劇 特 講	4	3・4			比 較 社 会 構 造 論	4	3・4	休 講	
	米 文 学 特 講 I	4	3・4			政 党 論	4	3・4		
	米 文 学 特 講 III	4	3・4			短 大 国 文 科	国 文 講 読 I (上 代)	2	3・4	
	時 事 英 語	4	3・4				国 文 講 読 II (中 古)	2	3・4	
地 理 学 科	地 質 学	4	3・4		国 文 講 読 III (中 世)		2	3・4		
	人 口 地 理 学	4	3・4		国 文 講 読 IV (近 世)		2	3・4		
	応 用 地 理 学 I	4	3・4		国 文 講 読 V (近・現 代)		2	3・4		
	文 化 地 理 学	4	3・4		国 文 特 講 V (近・現 代)	4	3・4			
歴 史 学 科	日 本 仏 教 史 II	4	3・4	休 講	短 英 文 大 科	英 文 タイ プ ラ イ ティ ン グ II	2	3・4		
	日 本 史 特 講 VII (近 代)	4	3・4		時 事 英 語	4	3・4			
	東 洋 史 特 講 X (近・現 代)	4	3・4		短 放 射 線 大 科	計 算 機 言 語 概 論	2	3・4	半 期 科 目 ※口	
	西 洋 文 化 史 I	4	3・4	休 講		臨 床 放 射 線 特 論 I	2	3・4	半 期 科 目	
	考 古 学 特 講 III	4	3・4	隔 年 開 講・休 講		応 用 計 測 学	2	3・4	半 期 科 目	
	歴 史 哲 学	4	3・4							
	哲 学 史	4	3・4							
日 本 民 俗 学	4	3・4								

※イ。「ロシア・東欧経済論」旧「ソビエト経済論」ソビエト経済論の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ。計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
比 較 思 想 特 講	4		英 語 L L II	2	※	スペイン語FLL(初級)	2	
英 会 話 II	2	※	ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
ド イ ツ 語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
フ ラ ン ス 語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
中 国 語 F	2		フランス語FLL(中級)	2				
ス ペ イ ン 語 F	2		中国語FLL(初級)	2				
ロ シ ア 語 F	2		中国語FLL(中級)	2				

※ 「英会話Ⅱ」・「英語LLⅡ」の履修を希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。
- ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。
- ニ. 外国語科目・体育実技Ⅰ・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。なお、外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』（教務部⑩番窓口で配布）から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。
- ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
- 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
- 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

(注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.25参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	5
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び，所定の『単位履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次における最低および最高履修科目数（制限科目数）は次のとおりとする。

年 次	履 修 科 目 数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	5科目以上12科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	5科目以上11科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	3科目以上14科目以内	1 8 科目以内

イ. 体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 半期科目も1科目とする。

ハ. 再履修科目の履修については，次のとおりとする。

(1) 2年次生はすべて制限科目数（12科目以内）の範囲内で履修すること。

(2) 3・4年次生は外国語科目・保健体育科目の再履修についてのみ制限科目数（3年次：11科目以内，4年次：14科目以内）の枠外とし，17科目以内で履修できるものとする。

(注) 再度履修する科目であっても，前年度において履修登録していない場合は，再履修科目にならない。

ニ. 課程・講座科目を履修する場合

例) 3年次の場合

認める ……

履 修 制 限 科 目 数 $\left\{ \begin{array}{l} \text{外国語・保健体育科目の再履修は} \\ \text{5科目以上11科目以内} \end{array} \right\}$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{制限外} \\ \text{その合計が17科目以内} \end{array} \right\}$ + 課 程 ・ 講 座 科 目 数 = 18科目

認めず ……

履 修 制 限 科 目 数 $\left\{ \begin{array}{l} \text{外国語・保健体育科目の再履修は} \\ \text{4科目以下又は12科目以上} \end{array} \right\}$ $\left\{ \begin{array}{l} \text{制限外} \\ \text{その合計が17科目以内} \end{array} \right\}$ + 課 程 ・ 講 座 科 目 数 = 18科目

ホ. 制限科目数の範囲内で順次履修すれば，課程・講座科目の履修や未・再履修の補充も制限科目数の範囲内で十分可能である。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し，指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は，4月20日(火) 9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.11参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し，教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

- ニ、履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。
- ホ、いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。
- ヘ、『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

Ⅲ) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

(記) 5月13日(水)・14日(木) …… 9:30~16:00 昼休み除く

履修届(本人控)と照合の上、誤りのある場合は、5月15日(金)~18日(月)までに教務部⑨番窓口で訂正すること。

※ 受付時間(9:30~16:00 昼休み除く、土曜日は9:30~正午まで)

2. 履修届記入上の注意

授 業 時 間 表 (例)

曜日	時 限	科 目 名	科 目 コード	担当者名	担当者 コード
月	1	ドイツ語 I A	512201	百 済 勇	879
月	2	保健体育理論 (前期)	514201	長 濱 友 雄	A10
		保健体育理論 (後期)			622
月	3	宗 教 学 I	510101	岡 部 和 雄	157
月	4	論 理 学	510203	国 嶋 一 則	306
月	5	自 然 科 学 概 論	510401	宇 和 川 正 人	104

正 しい 記 入 例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科 目 碼 碼	担 当	担 当 コード
(1)	1		ドイツ語 I A	5 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論 (前期)	5 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	5 1 0 1 0 1	岡 部	1 5 7
	4	○	論 理 学	5 1 0 2 0 3	国 嶋	3 0 6
	5		自 然 科 学 概 論	5 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

- イ、楷書体で正確に記入すること。
- ロ、記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ、授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。
- ニ、半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線(上記、正しい記入例参照のこと)を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ、再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ、履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。
 - (1) 科目名・科目コード，担当名(姓のみ)・担当コードが一致しない場合
 - (2) 時限を誤って記入した場合
 - (3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0と6, 1と7)
 - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト、体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名(姓のみ)・担当コードを正しく記入すること。
- チ、自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ、履修届の本人控を正確に記入し、紛失ないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

順 序	授 業 区 分	授 業 科 目 (適 用)	科 目 数
1	一 般 教 育 科 目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外 国 語 科 目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保 健 体 育 科 目	保健体育理論(半期), 体育実技Ⅰ (必修)	2
4	基 礎 教 育 科 目	経済学概説, 経営学概説 (必修)	2
5	専 門 教 育 科 目	簿記学 (必修)	1
6	一 般 教 育 科 目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から5科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	5
1 年 次 履 修 制 限 科 目 数			15

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日(水)～7月20日(火)に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日(月)～2月3日(木)に実施する。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日・時以外は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月23日(金)、後期2月4日(金)〕

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験(期間外実施・レポート提出を含む)を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

(注意) 前期終了科目の追・再試験は9月25日(土)～10月1日(金)に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日(水)～3月1日(火)に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。

なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期）		定期試験実施時間（後期）	
1時限 9:20~10:20	4時限 14:40~15:40	1時限 9:30~10:30	4時限 14:30~15:30
2時限 10:50~11:50	5時限 16:10~17:10	2時限 11:00~12:00	5時限 15:50~16:50
3時限 13:10~14:10		3時限 13:00~14:00	

追・再試験実施時間（前期）	
1時限 16:10~17:00	
2時限 17:10~18:00	

追・再試験実施時間（後期）	
1時限 9:30~10:20	
2時限 10:50~11:40	
3時限 13:00~13:50	
4時限 14:10~15:00	
5時限 15:20~16:10	

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.29）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表 9月16日（木）、17日（金）

後期成績発表（卒業年次生） 2月17日（木）、18日（金）

” （在校生） 4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～48単位	86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目の不足単位数が12単位以下の場合。または、一般教育科目の不足単位がある場合。
原 級 留 置	19単位以下	47単位以下	85単位以下。または86単位以上修得しているが、保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

VII 教職課程・資格講座

経営学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	"	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	"	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	"	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

VIII 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月20日	I期（前期）分納入済のこと。（II期分免除）
9月21日～11月30日	I期（前期）分・II期（後期）分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期（前期）学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願出すること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 ……… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 ……… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を超えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部の他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部の他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

イ。履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。

ロ。留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

イ。学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で運用する。

ロ。外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。

ハ。通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。

ニ。保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。

ホ。保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。

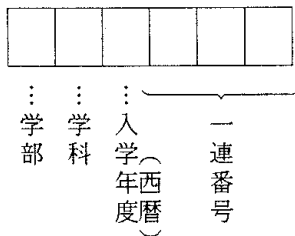
ヘ。学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

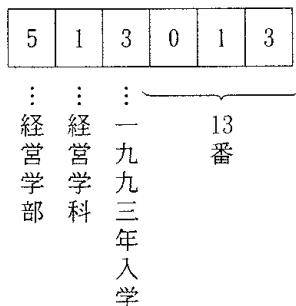
イ。学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。

ロ。学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1993年度入学・経営学部
経営学科13番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XI 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領 (必 要 書 類)	本人 印	保証 人印	取扱 窓口
届 書	単 位 履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること (締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後 1 週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地 (都道府県名) 変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後 1 週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書 (保証書) 添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後 1 週間以内 	要	不要	
	死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類 (写し可) 添付 	/	要	
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部	
人 物 考 査 書		
健 康 診 断 証 明 書	学生部③番	
在 学 証 明 書	学生部②番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

※ 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間考査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講義内容目次

一般教育科目	(35)
保健体育科目	(40)
随意科目	(41)
基礎教育科目	(45)
専門教育科目	(46)
他学部履修科目	(57)

[巻末]

教職および資格講座

一般教育科目

人文分野

宗教学Ⅰ (池田 練太郎)	35
宗教学Ⅰ (石川 力山)	35
宗教学Ⅰ (伊藤 隆壽)	35
宗教学Ⅰ (井桁 碧)	35
宗教学Ⅰ (再クラス) (岡部 和雄)	35
宗教学Ⅰ (再クラス) (奈良 康明)	35
宗教学Ⅱ (皆川 広義)	35
宗教学Ⅱ (椎名 宏雄)	36
宗教学Ⅱ (佐々木 章格)	36
宗教学Ⅱ (白金 昭文)	36
哲学 (檜垣 立哉)	36
論理学 (村上 勝三)	36
倫理学 (国嶋 一則)	36
文学 (忠鉢 仁)	37
歴史学 (茂沢 方尚)	37

社会分野

法学憲法 (茂野 隆晴)	37
社会学 (岩上 真珠)	37
地理学 (中島 義一)	37
統計学 (日下 泰夫)	37
文化人類学 (小川 順敬)	38
文化人類学 (村武 慶)	38

自然分野

自然科学概論 (安羅岡 一男)	38
自然科学概論 (漆原 和子)	38
自然科学概論 (宇和川 正人)	38
自然科学概論 (松野 正)	38
数学 (福田 賢一)	38
数学 (神田 茂雄)	39
心理学 (板津 裕巳)	39
心理学 (鈴木 順一)	39

保健体育科目

保健体育理論 (高橋 俊介)	40
保健体育理論 (牧野 茂)	40
保健体育理論 (再クラス) (田中 佳孝)	40
保健体育理論 (再クラス) (宮沢 栄作)	40

随意科目

比較思想特講 (佐々木 宏幹)	41
比較思想特講 (洗 建)	41
英会話Ⅱ (P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange W. Hubbard ・ D. J. Nolan	

J. K. Wells ・ P. Ziegler)	41
英語 L L Ⅱ (T. J. Cogan ・ 岩山 義春 大庭 直樹)	42
ドイツ語 F (柴野 博子)	42
ドイツ語 F L L (初級) (小林 ゲアリンデ)	42
ドイツ語 F L L (中級) (松岡 晋)	42
フランス語 F (桑田 禮彰)	43
フランス語 F L L (初級) (小玉 齊夫)	43
フランス語 F L L (初級) (M. マルタン)	43
フランス語 F L L (中級) (M. マルタン)	43
中国語 F (岩崎 皇)	43
中国語 F L L (初級) (小川 隆)	43
中国語 F L L (中級) (松本 丁俊)	44
スペイン語 F (ソニア・エレロ・ガルシア)	44
スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナバロ)	44
スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナバロ)	44
ロシア語 F L L (初級) (杉山 秀子)	44
ロシア語 F L L (初級) (廣田 英靖)	44
ロシア語 F L L (中級) (滝川 ガリーナ)	44

基礎教育科目

経済学概説 (明石 博行)	45
経営学概説 (北村 健之助)	45

専門教育科目

簿記学 (片桐 伸夫)	46
簿記学 (近藤 禎夫)	46
簿記学 (中平 榮一)	46
簿記学 (川口 修)	46
簿記学 (加古 宜士)	46
簿記学 (古庄 修)	46
簿記学 (大野 満奈)	47
経営学 (鈴木 幸毅)	47
会計学 (高木 克己)	47
経営史 (前田 和利)	47
経営管理論 (鈴木 幸毅)	47
企業形態論 (園田 哲男)	47
原価計算論 (近藤 禎夫)	48
プログラミング論 (青木 武典)	48
プログラミング論 (袁 福之)	48
プログラミング論 (森 博彦)	48
近代経済学 (滝田 公一)	48
日本経済史 (北島 万次)	49
民法Ⅰ (林 幸司)	49
商法Ⅰ (荒木 正孝)	49
アメリカ経営学 (宮城 徹)	49
経営財務論 (高田 光明)	50
経営労務論 (中村 真人)	50

経営組織論 (長瀬 勝彦)	50
経営技術論 (小野寺 孝一)	50
経営情報論 (加藤 武信)	50
経営科学 (和光 純)	51
情報理論 (西村 和夫)	51
マーケティング論 (曾我 信孝)	51
商業経営論 (森宮 勝子)	51
保険経営論 (石名坂 邦昭)	51
銀行経営論 (大岡 誠市)	51
国際経営論 (桑名 義晴)	52
日本経営史 (萩本 眞一郎)	52
経営統計 (後藤 儀一郎)	52
上級簿記 (大野 満奈)	52
管理会計論 (長松 秀志)	52
財務会計論 (渡邊 恵一郎)	52
経営分析論 (片桐 伸夫)	53
税務会計論 (高木 克己)	53
会計監査論 (中平 榮一)	53
証券市場論 (佐藤 昇)	53
商業史 (山田 勝)	53
経済政策 (西山 司)	53
財政学 (速水 昇)	53
金融論 (石野 典)	54
国際経済論 (永田 智則)	54
国際金融論 (齊藤 寿彦)	54
日本経済論 (羽鳥 茂)	54
民法Ⅱ (上井 長久)	54
外書講読 (英) (片桐 伸夫)	54
外書講読 (英) (中村 真人)	55
外書講読 (独) (百済 勇)	55
外書講読 (仏) (前田 祝一)	55
外書講読 (中) (松本 丁俊)	55
外書講読 (ス) (佐藤 玖美子)	55
外書講読 (ロ) (杉山 秀子)	55
商法Ⅱ (大野 直治)	55
労働法 (藤本 茂)	56

一般教育科目

人文分野

宗教学 I

池田 練太郎

宗教のもつ基本的な問題について考えた後、仏教の思想及び社会的側面について、歴史的展開を踏まえながら検討していこうと思う。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）

宗教学 I

石川 力山

前期は宗教とは何かという課題について、世界の諸宗教を体系的にとらえた上で、個人と宗教、社会集団と宗教、国家と宗教等の問題について考えてみたい。

後期は、仏教についての基本的理解を深めた上で、アジア世界における仏教の様態について触れ、人間生活と宗教の問題について検討する。

〔教科書〕駒沢大学仏教学研究室編『宗教学 I』（更生社）¥2,370

〔参考書〕水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I

伊藤 隆壽

仏教は、日本人にとって最も身近な宗教である。しかし、その仏教に対する正しい理解・認識をもつ人は甚だ少ない。本講座では、先ず第一に仏教の基本的な教え、立場についての理解を深めるようにしたい。その過程において、他の宗教や宗教に関する基礎的問題に言及することにする。

〔教科書〕『宗教学 I』（更生社）¥2,370

〔参考書〕授業において紹介する。

宗教学 I

井桁 碧

宗教は「戒律」「教義」「教団組織」といった枠組みを通して把握されることが多い。たしかにそれらを通して人間の宗教的営為を理解することも可能であろう。しかし本講では、そうした体系的な思想や組織化された教団としての宗教ではなく、人々の行為、祭りや儀礼などに着目し、そこに示されている「民俗の想像力」を探ることを目的とする。本年度は「季節の祭り」「通過儀礼」を中心に、日本人にとって宗教とは何か、さらに人間社会における宗教の意味・機能について考察したい。参考書は授業の中で紹介する。

宗教学 I (再クラス)

岡部 和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教の歩んだ道 I』（東京書籍）

宗教学 I (再クラス)

奈良 康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。
〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 II

皆川 広義

はじめに、日本人の心に大きな影響をあたえて

きた仏教について、教主釈尊の教えを中心に概説する。

次に、仏教のなかで、生活化された仏教といわれる禅について、その歴史を中国・日本へとたどりながら、思想や創造した禅文化について考究したい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

宗 教 学 Ⅱ

椎 名 宏 雄

宗教学Ⅰで学習した基礎の上に立ち、仏教思想の中でも特に東洋的で超宗派的な多くの特長をもつ禅について、広い視野からの総合的な理解を目指す。

講義はノート筆記と口述により、(1)仏教と禅、(2)禅の歴史、(3)禅の実践、(4)禅の思想、(5)禅と文化、(6)禅と経営、の順に進める。学習とは、みずから理解し身につけることであって、試験のために暗記することであってはならない。したがって、講義の中で、随時に関連したテーマをとりあげ、現実の問題として学生諸君とともに考えてゆきたい。坐禅の実習も行なう。

〔参考書〕適宜紹介する。

宗 教 学 Ⅱ

佐々木 章 格

すでに宗教学Ⅰにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学Ⅱにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 Ⅱ

白 金 昭 文

1. 宗教としての禅

- (1) 釈迦の教えと禅
- (2) 禅と人間・生活・文化

2. 禅の歴史に学ぶ

- (1) 禅宗の祖ダルマの教え
- (2) 禅の思想
- (3) 禅の日本的展開 — 道元と瑩山
- (4) 禅と現代

3. 禅の体験 — 坐禅実習

哲 学

檜 垣 立 哉

哲学は生きるための支え、拠り所を求めつつ、同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で、哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし、それにより生きることを学ぶものである。授業では、最初、この哲学的思索がいかに行われ、いかなる問いが立てられねばならないか、について一般的な要点を説明する。それを、更に、具体的に過去の哲学の営みを通して検討し、現代的視点から過去の哲学 — 古代ギリシア哲学から現代哲学にいたるまで — の意味を学ぶことにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

村 上 勝 三

科学であれ哲学であれ、また日常的な行為においても、正しい論理的思考が求められるが、それを主眼的に探究するのが論理学である。授業では、前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学（概念論、判断論、推理論等）を取り上げる。後期では、現代の記号論理学の基礎的内容（命題論理学と述語論理学）を学ぶ。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

倫 理 学

国 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに関し、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に

基づく行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主要な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。哲学思想の基礎的概念や考え方の解明を重視し、教材の重要な個所を解説して読解力を養成する。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

文 学

忠 鉢 仁

日本文学史の中でも芸術的達成度が高いとされる『平家物語』とともに、軍記物語のもう一方の雄とされる『太平記』を中心に、これまで諸君があまり接する機会を持たなかったと思われる、中世軍記物語について考え、動乱の中で“生死”に直面する人間の姿を現代の世相を勘案しつつ追究してみたい。

〔教科書〕今成元昭ほか著『古熊本 軍記物語』
(双文社出版) ¥1,545

歴 史 学

茂 沢 方 尚

中国古代、なかでも殷周春秋戦国秦漢代までの、中国と西北方の民族との関係史を展望する。王国維の「鬼方昆夷獫狁考」を解説検討する。甲骨金文、から漢文資料を利用するために、その基礎となる所謂文字学、即ち小学及び、広く深い伝統を有する中国学の全般にわたる解説をあわせて行う。最も基礎的文獻たる『史記』を通じて司馬遷の見た中国人の経済と心の問題等も考えてみたい。

〔参考書〕茂澤方尚著『韓非子』の思想史的研究
(近代文藝社) ¥5,000

社 会 分 野

法 学 憲 法

茂 野 隆 晴

平素の日常生活のなかでは余り意識されることがないかもしれないが、われわれは多種多様な法制に囲繞されており、ときにそれによって重大な

影響を被ることも少なくない。こうした状況のもとで、正しい法知識、法的素養を身につけることは必須の要件といってよい。

法律は、ともすれば無味乾燥なものとして理解されている向きがある。そこで、成るべく身近な問題に照して平易に講述していく。

講義は、前半で、わが国の法制の歴史の変遷、現代国家の仕組みなどを概観したうえで、現代法の特性に及ぶ。後半では、教養としての憲法を念頭におき、憲法全般の解釈をおこなう。

〔教科書〕山口嘉三・大久保治男編『法学要説』
(芦書房)

大久保治男・茂野隆晴・櫻井一成共著
『現代法学』(高文堂出版社)

〔参考書〕適宜指示します。

社 会 学

岩 上 真 珠

個人は、社会に生み込まれ、社会の一員としてさまざまな社会現象に遭遇する。講義では、家族、近隣、学校、職場といった個人が出会う身近な現象を、誕生から子ども時代、青年期、成人期、老年期を経て死に至る個人の生活史に即して、考察してみたい。講義を通して、われわれをとりまく生活世界の構造を理解してもらうことを目指す。

〔教科書〕高島・岩上・石川共著『生活世界を旅するーライフステージの社会学』(福村出版)

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

地 理 学

中 島 義 一

地理学の諸分野のうち、日本の歴史地理に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳(高校生の時に使ったものでよい)を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕矢守一彦『空から見た歴史景観』
(大明堂) ¥2,400

統 計 学

日 下 泰 夫

統計学は経営、経済等の諸問題を解決する1つの有力な手法であり、広範な領域で利用されている。本講義では、統計学の基本的な考え方を例題

をまじえて説明する。特に、理解を深めるための演習に力を入れたい。さらに、この分野でコンピュータがどのように利用されるかを理解するための「パソコンによる演習」(度数分布法、正規乱数の発生、確率分布の計算、モンテカルロ・シミュレーション等)も行う。

1. 統計学の歴史 2. 統計的方法の本質
3. 記述統計 4. 標本空間と確率
5. 確率変数と確率分布 6. 母集団と標本
7. 推定 8. 検定 9. 相関
10. 回帰

〔教科書〕P.G. ホーエル

(浅井 晃・村上正康共訳)

『初等統計学』(培風館) ¥1,530

〔参考書〕開講時に紹介する。

寄せられているエイズ、がん、輸入病、院内感染、気功などを例にとり、病気の科学について解説したい。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

漆原和子

自然科学の歴史を通して、これまで人類が自然にどのように接してきたかを説明する。さらに現在、高度の科学・技術をもって人類が自然へ働きかけることによってどのような問題をかかえているか考察する。

文化人類学

小川順敬

文化人類学は様々な文化の比較・研究を通じて、「人間の理解」を目ざしている。講義では、文化人類学の目的や特色、基本的な考え方を、「社会構造」「文化とパーソナリティ」「宗教と世界観」などの問題を検討していく中で、明らかにしていきたい。教科書、参考書は開講時に指示します。

自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

文化人類学

村武慶

日本文化を中心に、文化人類学の基本的問題、家族、親族、婚姻、儀礼などをとり扱いたい。

〔教科書〕村武精一・佐々木宏幹編『文化人類学』(有斐閣Sシリーズ) ¥1,545

自然科学概論

松野正

現代、地球規模の視点から取り上げられている環境問題について自然科学と社会科学の境界領域に焦点を当ててみたいと思う。

〔参考書〕レスター・R・ブラウン『地球白書』'90~91(ダイヤモンド社)

大来佐武郎監修『地球規模の環境問題 I・II』(中央法規)

自然分野

自然科学概論

安羅岡一男

今日では医学は臨床医学をも含めて自然科学の中の生物学の一分科である。「流行病の学問」として発生した疫学は、最近では「人間疾病の生態学」としてとらえられている。最近重大な関心が

数 学

福田賢一

自然、工学的現象だけでなく、社会科学諸分野との関連、応用を考えながら、現代数学の基本的概念、方法を学ぶ。

予備知識は特に必要としない。しかし、自分自身で考え分析するという態度は当然必要である。

内容は次のとおりである。

- (1) 論理 (2) 線形代数 (3) 微積
- (4) 確率・統計 (5) ゲームの理論

〔教科書〕 大学自然科学教育研究会『新しい数学』
(東京教学社) ¥1,600

〔参考書〕 必要となり次第指示する。

数 学

神 田 茂 雄

微分・積分の初歩的な事柄をできる限り多くの
図を書きながら説明していく。予備知識は高校初
年級で十分です。

〔教科書〕 小寺平治著『教養数学ポプリー』
(葦華房) ¥1,648

心 理 学

板 津 裕 巳

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究するこ
とによって、「人間とは何か」さらに「自分自身」
を明らかにしていこうとする学問である。本講義
では、まず最初に心理学研究の輪郭について述べ
た後、感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動
・犯罪や非行への心理学的アプローチなどいくつ
かの研究領域について話を進めていくつもりで
いる。

〔参考書〕 講義の進行にともない、適宜紹介して
いきます。

心 理 学

鈴 木 順 一

心と行動の科学であろうとしている心理学は、
人間行動を予測し制御しようとする行動科学や、
自己を理解し自己を制御しようとする臨床的アプ
プローチ等として発展しつつある。本講座では、主
として臨床心理学やパーソナリティ心理学を中心
に、カウンセリングや心理療法を体験実習しなが
ら、自己をみつめ自己を知りセルフ・コントロール
できるよう自己成長をめざしてグループ学習を
進める。最初の授業で述べる学習方針を良く理解
し、自己の責任において主体的に選択すること。

〔教科書〕 特に教科書は指定しませんが、知識と
しての心理学を理解するために『心理
学概説』をお読み下さい。

〔参考書〕 授業内で指示します。

保 健 体 育 科 目

保健体育理論

高 橋 俊 介

保健体育理論をとおして身体の健康とか体力について考える。

- I. 運動はなぜ必要か — 人間は動くことによって、生命を維持する。
- II. 体育による教育 — 体育を通して、どのような教育的効果があるか。
- III. 現在行なわれている運動がどのような経緯で生まれてきたか。
イ. 実用面 ロ. 健康の面
ハ. ホモルーデンスの面
- IV. 体育に関係のある言葉の解説

(注) 評価方法 — 特にペーパーテストは行なわれないが毎月1回のレポート提出で試験に変える。

保健体育理論 (再クラス)

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠を持って図る。

具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起すスポーツ障害の原因、予防更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

保健体育理論

牧 野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体力づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論 (再クラス)

田 中 佳 孝

健康生活を維持する為に必要な栄養学的知識について、食物とビタミンを中心に講義を展開する。

内容はビタミンの生理作用と薬理作用・ストレス・喫煙と飲酒・身体に良い食物・間違ったダイエット等について話し、AIDSについて識る。

随 意 科 目

比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に焦点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕 随時指示する。

英 会 話 Ⅱ

P. A. Bendinelli ・ T. A. Grange
W. Hubbard ・ D. J. Nolan
J. K. Wells ・ P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Ⅰを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容 (syllabus) を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students. (UPPER LEVEL II CLASS). Class will be student orientated, not teacher orientated. Details in first meeting.

T. A. Grange

Some mottoes : It is better to be forced to learn than not to know (Ælfric) ; ...

gladly would he learn and gladly teach (Chaucer) ; a little learning is a dangerous thing (Pope) ; it takes all kinds of in and outdoor schooling to get accustomed to my kind of fooling (Frost) ; please don't be quiet — in English (tag).

You must learn to listen. Carefully. And you must talk, talk, talk, talk, talk, and talk some more. To your classmates. To yourself. To me.

W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕 The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

Text to be announced in class.

J. K. Wells

Hello students! Welcome to my English Conversation II course. My class will be an extension of English Conversation I as Hiroshi Shimizu leaves his American host family and travels in the U.S.

Printouts will be handed out in each class, so join in the fun of learning English conversation through role-playing. We may have some future actors/actresses in the class!

Requirements : any 2nd year student
Attendance : only 3 absences will be allowed
Tests/Quizzes : 2 major tests (role-playing) ; announced quizzes
Class size : 40 students

See you in class

[教科書] Printouts (Books will not be necessary)

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

[教科書] 英語の新聞記事のコピー・その他

英語 L L II

T. J. Corgan ・岩山 義春
大庭 直樹

英語 L L I のアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語 L L I を履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Corgan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The materials for this year will probably include a recent, popular movie and a news program. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the

text on the first day of class.

岩山 義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありませぬ。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭 直樹

聞き取りと表現力のアップを目的とした中級から上級コースのクラスである。テキストは、内容理解を中心としたヒヤリング用のものと日常英語を中心とした会話用のもの、2冊を使う。クラスは毎回、両方のテキストを使って行なう。

ドイツ語 F

柴野 博子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思います。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えていきます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語 F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話が出来るようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語 F L L (中級)

松岡 晋

本講義は F L L (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格

できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

〔教科書〕コピーを配布する。

フランス語 F

桑 田 禮 彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族／教育／趣味／宗教／思想などを予定しています。いずれの場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものと日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕使いません。

〔参考書〕授業の中で指示します。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初歩の聞きとり・会話の練習を行う授業です。音および画像からフランス語に入るつもりですので、文法的知識の有無を問いません。したがって、今までフランス語に触れたことのないひとでも「歓迎」しますが、しかしそのぶんだけ、新たに記憶したり書きつづけたりする「労力」は要求されるかもしれません。

願わくば、一年後には、音としてのフランス語に、習熟とまではいかなくとも、まあ、恐怖心を抱かずに直面できるであろうにはなれるように、と思っています。

〔教科書〕『Avec Plaisir 1』(4月にLL事務室で購入のこと)

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

〔教科書〕『BIENVENUE EN FRANCE 1』

中国語 F

岩 崎 皇

「一分間小説」を読みながら、講読の基礎を固めたいと思います。受講者の興味を考慮して作品を決めたいと思うので、自分の興味や学習程度を伝えられるようにしておいて下さい。

中国語 F L L (初級)

小 川 隆

『学習中文』というビデオ教材を使って、会話と聞き取りの練習をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけるとと思います。

プリントを用意しますので、履修希望者は必ず第一回の授業に出席して下さい。発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。要はヤル気です。

中国語 F L L (中級)

松本 丁俊

中国語 F L L 初級を終えたものまたは中国語を1年以上履修したものを対象とする。中国語学習に熱意ある諸君の参加を歓迎する。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕随時指示する。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。

〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロ

シア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語 F L L (初級)

廣田 英靖

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (中級)

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独得の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

基礎教育科目

経済学概説

明石博行

本講義では、経済学の入門講義を3つの領域にわけておこなう。第1部では、経済学説の大まかな流れを概観する。第2部では、いわゆる近代経済学のミクロ理論とマクロ理論を要約的に紹介する。第3部では、いわゆるマルクス経済学の原理論を要約的に紹介する。

本講義の目的は、受講者が、経済学にかんする幅広い基礎知識を身につけ、経済・社会を分析する能力を高められるよう助力することにある。したがって講義では、経済学にかんする基礎知識の修得を第一義的な課題として取り組むが、経済学と現実の経済・社会との関連についても適時ふれ、さらに日本と世界の時事的な経済問題にも折にふれて言及する。

〔教科書〕教科書は使用しない。

〔参考書〕最初の講義時に紹介する。

経営学概説

北村健之助

まず経営学一般論をお話し、さらに商業経営論、産業経営論、銀行経営論等を取りあげ、それぞれの特殊性をよく考え検討し、皆さんの理解がゆきとどくよう努力するつもりです。

〔教科書〕藤芳誠一編著『新版経営学』

(学文社) ¥2,369

専 門 教 育 科 目

簿 記 学

片 桐 伸 夫

簿記とは「帳簿記入」の略語であり、読んで理解する学科ではなく、文字どおり、記帳訓練によってその技術を体得する学科です。したがって、受講生は常にレポート提出が要求されることを前提として受講下さい。

〔教科書〕沼田嘉穂著『簿記教科書』（同文館）
井上・新井編著『検定簿記ワークブック 3級商業簿記』（中央経済社）

簿 記 学

近 藤 禎 夫

社会科学としての簿記・会計学は、たんなる計算技術的側面の理解のみにおわってはいらない。それが現実の社会・経済においてどのような役割をにない、機能しているのかという点もあわせて解明する必要がある。本講義では、簿記論に関するかぎりにおいて、周辺科学（とくに会計に関する領域や、商法、税法等）も、必要に応じて展開する。

〔教科書〕新教科書印刷中につき、新学期に指示します。

〔参考書〕畠村剛雄編著『簿記会計学習ハンドブック』（中央経済社）¥2,400

簿 記 学

中 平 榮 一

複式簿記の原理について詳説する。また、講義のプロセスにおいて、商企業の複式簿記の記帳演習問題を出来るだけ数多くとりあげてゆきたい。

簿 記 学

川 口 修

この講義では、複式簿記を商企業に適用する商業簿記について、その基本的な原理を講義し、同時に記帳方法についても講義・指導する。必要と考えられる簿記の対象となる経済事象について講義をし、記帳方法を指導する。

この講義においては、最終的に個人企業の決算手続までを論ずる。できる限り、わかり易くする考えであるが、学生諸君にも相当の努力を期待する。適宜、プリント等で理解の確認をする予定である。

継続は力なりと言われるが、簿記の理解にも、そのことはあてはまる。欠席しないように不断の努力を望む。

〔教科書〕森藤一男編著『教養簿記』増補版（東京経済情報出版）¥3,000

簿 記 学

加 古 宜 士

企業会計の計算構造の基礎をなす複式簿記の仕組みについて、その原理と技術を理解習得させ、簡単な損益計算書と貸借対照表を作成しうる能力を養成する。

内容：複式簿記のメカニズム、簿記上の取引概念、勘定記入のルール、仕訳帳の記入、元帳の記入、試算表の作成、精算表の作成、商品売上の記帳、固定資産の減価償却の記帳、費用・収益の記帳、資本金の記帳、損益計算書・貸借対照表の作成等。

〔教科書〕新井清光編著『簿記検定 3級商業簿記』（税務経理協会）¥630

簿 記 学

古 庄 修

企業会計システムからアウトプットされるデータの理解と適切な運用なくして、企業を合理的に

経営していくことは不可能である。複式簿記のシステムは、企業の外部および内部からの要請に基づいて考案された社会的制度的な計算技術である。

本講座は、この複式簿記の基本原則を習得してもらうためである。講義は、一回一回の積み重ねによって総合的な理解を得ってもらうように進められるから、学年末にまとめて勉強することは出来ない。必ず出席してその場でマスターして欲しい。

〔教科書〕東海幹夫監修『情報化社会の簿記会計知識』（東京経済情報出版）

簿記学

大野満奈

簿記は会計諸学科の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とするものである。

また、併行して、実際に簿記問題を解く練習も行い、解説していく。

〔教科書〕東海幹夫監修『情報化社会の簿記会計知識』（東京経済情報出版）¥2,100
沼田嘉穂『簿記教科書』（四訂新版）（同文館）¥2,600

〔参考書〕講義中に紹介

経営学

鈴木幸毅

本年度は、次の内容で講義する。

1. 経営学の対象：企業と企業管理
2. 経営学の方法
3. 各論：生産、販売、財務、労務等
4. 経営戦略
5. 企業の多国籍化
6. 日本の経営
7. 企業の社会的責任

〔教科書〕鈴木幸毅著『企業と管理の理論』（税経）但し、改訂中。秋には完成予定

会计学

高木克己

今日、会計は株式会社をはじめとして、あらゆる経済主体で重要な役割を果たしている。会計学は、一般的に、その基礎的な諸概念及び会計制度を体系的に取扱おうとするものである。

講義では、経済活動の成果を測定し、かつ、伝達する手段としての簿記の知識に基づいて、その理論的な背景等を明らかにして行く。

なお、テキスト等は開講時に指示する。

経営史

前田和利

経営史は「企業経営とは何か」について史的に答えていくことに研究の意義がある。講義では、経営史学の課題と方法を検討し、そのうえにたって企業経営の一般的発達史（生成・確立をイギリス、発展をアメリカを中心として）を論ずる。その際、経済過程や文化構造と関連させながら、企業経営者のタイプ、経営形態、企業形態、組織と管理などの問題に焦点をあてる。

なお、講義の最終段階で第2次大戦後の日本企業の成長過程を1、2の産業をとりあげて論じる予定である。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。

経営管理論

鈴木幸毅

経済・社会の動向と関連づけながら、経営管理論の理論展開（古典、新古典、近代、現代）を跡づけるとともに現代的問題状況（生産・技術、労働、情報化、国際化など、及び環境問題）について説明する。

〔教科書〕鈴木幸毅著『環境問題と企業責任』（中央経済社）
鈴木幸毅著『現代組織理論』（税務経理協会）

企業形態論

園田哲男

本講は、まず経営形態と企業形態の意義の区別

を理解させ、その上で経営形態の発展過程を制度的に考察し、今日の企業制度の本質を理解させることにある。特に株式会社の特質と機関、および資本形態について解説して行く。

〔教科書〕車戸 実編『企業形態論』

(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕講義中に紹介

原価計算論

近藤 禎夫

1993年度においては、下掲のテキストにより以下に示す内容を講義する。

1. 資本制的原価計算の役割とその考え方
2. 原価計算の概要
3. 原価の費目別計算
4. 原価の部門別計算
5. 個別原価計算の方法
6. 総合原価計算の方法
7. 標準原価計算
8. 経営計画と原価計算
9. 社会主義の原価計算方法
10. 原価計算の歴史

〔教科書〕敷田礼二編著『新しい原価計算論』
(中央経済社) 1988年

〔参考書〕敷田礼二・近藤禎夫著『原価公開』
(新日本出版社)

なお、プリントは随時配布

プログラミング論

青木 武典

高度情報化時代といわれる今日、計算機、特にパソコンの利用は経営現場において欠かせないものとなってきました。本講義では、初心者を対象に、楽しみながらパソコン利用の基礎を身に付けて頂くことを狙いとして、

- (1) 前期は、表計算データベースソフトによるデータ処理、およびBASICによる基本的なプログラミングを学ぶ。
- (2) 後期は、PASCALを用いた統計解析や簡単なシミュレーションなど、実用的なプログラミング技法を学ぶ。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕プリント使用

プログラミング論

袁 福之

「情報化時代の経営分析」をテーマに、情報と計算機を活用して経営における問題解決と意思決定の過程を探求していく。統合型表計算ソフト『ロータス1-2-3』と『Wingz』を用いて、データの視覚化、ソート・検索・抽出、財務諸表の作成、時系列分析、経営計画・管理などの経営モデルの構築とシミュレーション、回帰分析による販売予測と株価分析、マクロ命令などを学習する。

講義は特にデータとその解析過程のグラフィカル表示、プレゼンテーション(表現説得能力)、ドキュメンテーション(文書作成能力)を強調する。実習形式の授業であるため、欠席をしないように。

〔教科書〕真鍋、逆瀬川、若山著『文科系のコンピュータ/応用編』(岩波書店)
¥2,580

〔参考書〕小川晃夫訳『日本語Wingz 完全マスター』(アスキー出版局) ¥3,200

プログラミング論

森 博彦

本講義では、パソコン実習を通して、経営におけるコンピュータの利用方法について、実践的に学んでいくことを目的とする。

前半は、表計算などのビジネスアプリケーションを用いて、コンピュータの使用法や、経営での活用法を学ぶ。後半には、Pascalなどの言語を用いてコンピュータの原理・基礎を学んでいく。また、随時、マルチメディアや人工現実感、また意思決定の支援などの最新技術も話題として取り入れていく。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕講義中に指示します。

近代経済学

滝田 公一

本年度は、産業組織論の入門的講義を行います。講義内容は、以下のとおりです。

1. 産業組織論とは?
2. 企業の理論
3. 生産費用

4. 完全競争と独占
5. 支配的企業と競争的周縁
6. カルテル
7. 非協力的な寡占
8. 製品差別化と独占的競争
9. 産業構造と成果
10. 価格差別
11. 垂直的統合
12. 品質と情報と広告

〔教科書〕 特に指定しません。

〔参考書〕 ロジャー・クラーク著、『現代産業組織論』，多賀出版，1989
 Carlton, D.W. and J.M.Perloff,
Modern - Industrial Organization,
 Scott, Foresman, 1990

日本経済史

北 島 万 次

江戸時代から明治維新期までの経済史について講義する。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」・第二編「物権」・第三編「債権」，いわゆる『財産法』と呼ばれる分野を対象とし，その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では，重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し，『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕 開講時に指示する。

〔参考書〕 開講時に指示する。

商法 I

荒 木 正 孝

この講義では，商法総則（法例，商人，商業登記，商号，商業帳簿，商業使用人，代理商）および会社法（総則，合名会社，合資会社，有限会社，株式会社，）について基本的な説明を行なう。商

法は，民法を一般法とする特別法であるから，民法総則や債権総論の知識があれば一層理解しやすいでしょう。

講義のやり方としては，限られた授業時間をできるだけ有効に使いたいのので，議論の多い会社法に重点を置いて解説し，会社法を理解するために必要な限度で商法総則にも触れることにしたい。また，会社法のなかでも現代社会において国民の経済生活に極めて大きな影響を及ぼしている株式会社について，その生成，機能，構造などの私法的側面を規整する株式会社法に焦点を絞り，その重要問題に関する法規，学説，判例および実務の取り扱いなどを採り上げ，会社法の基本原理についての理解を深めて行きたい。

〔教科書〕 荒木正孝著『現代企業法』（商法総則・会社法）（成文堂）¥2,800

〔参考書〕 奥島・中島編『商法演習 I（会社法）』（成文堂）¥2,300
 鴻・竹内・江頭編『会社判例百選（第5版）』（有斐閣）¥1,800

アメリカ経営学

宮 城 徹

経営学がすこぶる間口の広い学問であることは否定しえない。こうして，アメリカ経営学における教科編成という観点からみれば，そこには多様な領域がカバーされるのではなくてはならない。この講座では，こうしたいわば多面的特徴をもつ，アメリカ経営学のほぼ全体的な姿を明らかにする，という趣旨で，最も先端的展開としてのプロパティ・ライツ理論と取引コスト・アプローチに重きを置きつつ，かんたんに表現すれば，少なくとも，以下の項目を順次とりあげ講義を進めるつもりである。

- (1) 制度・新制度学派
- (2) 伝統的管理論
- (3) 意思決定理論
- (4) コンティンジェンシー理論
- (5) 企業の性格
- (6) 企業の経済的側面と組織的側面の統合化への傾向
- (7) その他

〔参考書〕 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）¥3,200

経営財務論

高田 光明

財務とは、資本の調達と運用をいう。経営財務論は、企業という組織体におけるこのような財務を研究対象とする学問である。企業が資本を調達するのは、利益を生み出すことを目指して、調達資本をできるだけ効率的に運用するためである。しかし、資本運用の効率性は、企業が、いかに資本の運用に合わせた資本の調達を行えるかに制約される。資本の運用あつての調達であるからといって、そのことは、資本の調達面の意義が小さくなることを意味してはいないのである。

この授業では、以上のような問題意識のもとで、基礎的な事からを中心に、理解を深めるために適宜具体例も取り入れて講義するつもりである。

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』
(中央経済社)

〔参考書〕染谷恭次郎著『資金計画の手引き』
(日経文庫)

経営労務論

中村 眞人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業に働く人々の仕事の現実について考えていきたい。現代日本企業の労務管理諸制度と労働問題を考察の素材とする。

はじめに、問題をとらえるための基本的枠組として、労働市場と分業について話す。つづいて、雇用管理(人事管理)、賃金、労働時間、労使関係という個別の事柄へと話を進めていく予定である。

経営組織論

長瀬 勝彦

現代の経営組織の抱える問題はジャングルのように入り組んでいるが、われわれは理論という鉈を手手にそこに分け入っていくことにしよう。予定している主なテーマは以下のとおりである。(順不同)。組織の階層、組織の部門化、ラインとスタッフ、人員配置、組織の成長、組織のリストラクチャリング(再構築)、組織文化、組織開発、組織の創造性、多国籍企業の組織、小企業の組織、

ネットワーク組織、組織におけるパワー、組織成員のモチベーション、日本企業の組織、組織と個人、企業の社会的責任。

なお、講義中に随時指名して聴講生諸君の発言を促すことがある。また私語については退場を含め厳正に対処するので心されたい。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕随時指示する。

経営技術論

小野寺 孝一

次の項目で講義をすすめる。機構と本質に分けているが、システムの合成は、技術の本質と深く関連するので“2”はここで説明することも考えている。

1. 技術の機構

(1) 企画

(イ) システムの課題の認識、目的の設定

(ロ) システムの合成

(ハ) システムの解析(経営的解析)

① 市場調査

② 投資計算

③ バリュウ・エンジニアリング

(2) マネジメント

(イ) 管理過程、組織

(ロ) 課業設定, T. Q. C.

2. 技術の本質

(1) 労働手段の体系説

(2) 技術の史的展開と政策

経営情報論

加藤 武信

経営戦略策定や経営管理に適用される企業情報システムは、情報技術の発達とシステム規模の拡大によって益々巨大化しているが、それに対する役割期待と共に、情報投資の適切性や情報システムの有効性などへの問題提起もなされつつある。

本講義は、現代企業における情報システムについて、理論的および技術的側面から総合的に検討し、①情報システムの基礎、②情報システムの理論と技法、③情報システムの役割について概観する。

〔教科書〕長松秀志著『経営情報システム』

(白桃書房) ¥3,000

経営科学

和 光 純

企業の経営、或いは一般に組織の運営における意思決定の状況を数学的手法により客観的にとらえ分析し、よりの確かな意思決定を下すための基礎理論を提供しようとする体系が経営科学である。

本講義では、経営科学を形成する理論として、線形計画法、輸送問題、在庫問題、ゲーム理論、及び、経営とコンピュータ等について論じたい。各回ごとに簡単な演習問題をていねいに解き、数学的分析手法の理解が深まるように努めたい。

下記の本を参考書とし、特に教科書は指定しない。

〔参考書〕福田治郎・児玉正憲・中道 博共著
『OR入門～はじめて学ぶ人のために～』（多賀出版）¥2,781

情報理論

西 村 和 夫

近年では、日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を、客観的かつ具体的に探ります。もう少し具体的にいうと、情報の量をエントロピーという尺度で定義したシャノン流の情報理論について講義します。

また、符号理論と、近年盛んになってきた暗号理論についても触れます。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮します。

マーケティング論

曾 我 信 孝

前期はマーケティング政策である製品政策、価格政策、チャネル政策、販売促進政策を理論面から整理し、大企業が消費者を支配する過程とその資本蓄積の構造を分析する。

後期は、マーケティングの社会的問題を考察し、さらにわが国の経済環境の変化にともなう企業の新しい戦略、とりわけ総合商社を中心に国際マーケティング戦略を分析する。

〔教科書〕講義中に指示する。

商業経営論

森 宮 勝 子

商業経営論とは、生産者と最終消費者との中間にあって、商品もしくはサービスを購入・販売することを業とする中間業者（卸売業者・小売業者）の活動をその研究対象とする。低経済成長下の今日、商業経営も減量経営を余儀なくされており、新たな対応が求められている。又、所得水準の高度化にともなう消費欲求の多様化、高級化により消費者の的確な把握は、ますます難しくなりつつある。このような環境下において、商業経営は、いかに行われるべきかを小売業を中心に立地分析、店舗管理、商品政策、仕入政策、商品管理、販売管理等の諸領域より検討する。

〔教科書〕宇野政雄著『新小売マーケティング』（実教出版）¥2,100

〔参考書〕梅沢昌太郎著『小売経営戦略』（同友館）¥2,300

保険経営論

石 名 坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的问题を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

銀行経営論

大 岡 誠 市

金融の自由化・国際化が急速に進展しているなかで、どのような対応をしていくかが今後の銀行経営の課題になっている。

わが国の銀行をとりまく環境のこのような大きな変化と欧米の銀行の動きに注目しつつ、銀行経営にかかわる基本的な事ごらを中心に取り上げることとし、金融関係の時事問題については随時解説することとしたい。

また、金融自由化により新しい金融商品が次々

と開発されてきたが、今後登場するものを含め逐次触れることとする。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕全国銀行協会連合会調査部編
『図説わが国の銀行』（財経詳報社）
¥1,800

国際経営論

桑 名 義 晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本的経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

日本経営史

萩 本 眞 一 郎

日本の企業あるいは事業経営が、いかなる特徴をもち、それがどのような歴史的な条件の下で生れたのかを明らかにすることが、授業の中心になります。江戸時代から始まりますが、戦後期の高度経済成長期までをとりあげ、具体的な事例（ケース）をあげながら考えていくことにします。財閥、総合商社など企業システムに関わるもの、所有と支配、戦略、内部組織、雇用など企業の内部構造に関連するものが中心となりますが、適時、海外の事例や経済史的な歴史的状況説明にもふれることにします。

〔参考書〕開講時に指示します。

経営統計

後 藤 儀 一 郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学は、もはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら、それらが実際においてどのように応用（たとえば統計的品質管理）されるかを学習する。

〔教科書〕吉野 紀・後藤儀一郎著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

上級簿記

大 野 満 奈

すでに簿記の基本的な知識を習得した者を対象に、さらに高い水準の簿記論を学習することを目的とする。簿記上の具体的処理と、そこで問題となる重要な事項をとり上げ、企業会計原則等の会計諸則との関連を明らかにしながら解説していく。

〔教科書〕開講時に指示する

〔参考書〕講義中に紹介

管理会計論

長 松 秀 志

情報化・FA化のもとにおけるコスト・マネジメントについて講義する。本年度はとくに、自動化されたFA工場の製造システムの問題を中心に講義を進めていく。

〔教科書〕学年始めに指示する。

〔参考書〕学年始めに指示する。

財務会計論

渡 邊 恵 一 郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係をもつ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務

諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心に課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕 染谷恭次郎著『現代財務会計』

(中央経済社)

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕 開講の時指示します。

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送っていく上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行く。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

会計監査論

中 平 榮 一

主として、独立監査人による財務諸表監査の問題をとりあげて、詳しく講述する。なお、当然、監査役監査及び内部監査の基本的問題についても論及する。

証券市場論

佐 藤 昇

近年、世界的に重要性を高めている証券市場に

ついて出来るだけ実践に則した講義を目指したい。

まず最初に、証券市場で取り扱う有価証券の概念を定義し、つぎに国内の債券、株式の発行・流通市場の状況と市場参加者の動向等について明らかにしたい。

さらに、世界主要国の証券市場と国際資本市場の現状についても明らかにしたいと思う。

〔参考書〕 講義の中で指定する。

商業史

山 田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人(社)を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕 開講時に指示する。

経済政策

西 山 司

本年度の経済政策の講義は、経済政策の理論および経済政策の史的展開過程の解明を中心に、各国で実施されている現代の経済政策についても論述する予定である。

特に「価値判断」論争をめぐる諸問題点や、従来に経済政策論の主要な学説を検討するとともに、経済学体系における経済政策論の理論的位置を論究し、その果すべき課題を究明して、経済政策論の体系的な解明をおこなうように努める。

〔教科書〕 学年始めに指示する。

〔参考書〕 清水・松原編『経済政策論を学ぶ』

〔新版〕 (有斐閣)

財政学

速 水 昇

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵をうけている。そこで、わが国をめぐる最近の財政問題を現実との係わりでとらえ、身近な問題として理解が深まるように検討していく。その主な内容として、「平成5年度予算の構成」「公共財のあり方」「政府開発援助の拡大」「高齢化社会と財政」「国債の累積問題」「財政投融资」「財政政策のあり方」などを中心に講義する。

- 〔教科書〕藤原碩宣・速水 昇他著『財政と現代』
 (学文社) ¥2,800
 〔参考書〕西村紀三郎編著『統計からみる財政学』
 (学文社) ¥1,500

金融論

石野 典

本講義は、金融システムとは何か？ という問題に答える“マクロファイナンス”で、経済主体のミクロ的な金融行動を問題とするものではない。したがって経済現象の金融面の理解、すなわちバブル経済の本質を理解するなどに役立つ。伝統的な理論は勿論のこと最近の新しい理論をも取入れ講義する。しかし、純粋理論のみではなく、さりとてエコノミストのように現実を説明するに止まらず、現実理解に役立つ考え方や見方を提供する。目次はスペースがないので、ここでは示さないが、開講時にプリントして配布する。講義はオリジナルなのでノート形式で行う。だからテキストは特にない。資料等をできる限り配布する。
 〔参考書〕堀江康熙・吉野直行『基本テキスト1. 金融』(東洋経済新報社) ¥1,600

国際経済論

永田 智則

個々の経済主体が国境を越えておこなう経済活動は、国際経済における固有の相互依存と相互対立を生みだし、さまざまな国際経済現象をひきおこす。本講義ではこれら国際経済現象の解明の手がかりの修得を目的として、国際経済の基礎理論を簡潔かつ平明に提示する。
 〔参考書〕開講時に指示する。

国際金融論

斉藤 寿彦

〈講義目的(要旨)〉

外国為替、国際通貨、国際銀行業の理論と歴史と現状を中心として国際金融を講義する。金融面に重点を置きつつ、できるだけわかりやすく講義し、時事問題にも言及する。

〈授業内容・授業計画〉

前期 前期は外国為替および国際金融市場について説明する。4月、外国為替の仕組。5月、外国為替相場論。6月、外国為替銀行論。7月、国

際金融市場論。

後期 後期は国際通貨と日本の金融の国際化を明らかにする。9月、国際通貨の理論。10月、IMF体制の成立、IMFの制度と機能と現実、旧IMF体制の崩壊、11月、変動為替相場制、SDR、ユーロダラー、12月、円の国際化、銀行の国際化、証券の国際化、東京の国際金融センター化。1月、日本企業の国際的資金調達、東アジアにおける日本の金融の国際化の進展。

〈評価方法〉

学年末の筆記試験を中心とする。前期末の授業時間中に行う小論文の作成と出席点を若干考慮して成績をつける。

〔教科書〕授業時間中に指定する。

〔参考文献〕東京銀行調査部『外国為替の知識』
 (日経文庫) ¥750

日本経済論

羽鳥 茂

「国際化と日本経済」をテーマに講義する。変動相場制移行後のわが国のマクロ・パフォーマンスを理論と実証の両面からできるだけ平易に解説したいと考えている。
 教科書は深尾光洋『実践ゼミナール国際金融』(東洋経済新報社、1990年)を予定している。

民法Ⅱ

上井 長久

民法は、われわれ市民の日常の衣食住などの財産、および親子・夫婦などの身分をめぐる社会生活関係を規律の対象とする法律であるといえる。本講では、主として、財産関係のうちで人に対する請求権すなわち債権を中心に扱い、まず、債権法全体の体系および概略を説明し、つぎに、条文に即して債権法総論、債権法各論—売買・賃貸借などの契約、事務管理、不当利得、不法行為など—の順に、それらに含まれる制度・原理の意義、機能、背景などを重点的に解明してゆく。
 〔教科書・参考書〕開講のときに掲げる。

外書講読(英)

片桐 伸夫

経営分析をテーマとする専門書や、新聞・雑誌で現在話題になっているビジネス記事を読む。授

業は毎回、レポーターを決め、学生諸君に和訳していただき、これを訂正・補足しつつ、ディスカッション形式で進める。無断欠席・遅刻厳禁。
〔資料〕随時、指示する。

外書講読(英)

中村 真人

専門書ではなく、経済とビジネスに関連する雑誌記事、新聞記事、実務的書類などを読む。語学的側面を重視し、読むだけでなく、書き、聞き、話す練習も取り入れていく。

当り前のことだが、出席、予習、宿題の3つをどれも欠かさないことが履習の条件である。

外書講読(独)

百 濟 勇

EC通貨同盟への「マーストリヒト条約」構想が風前の灯火だ。その基本はドイツ統一がEC経済統合への新たな出発条件を与えた事だ。それだけにドイツ統一後の経済動向に注目しなければならない。だが政府の諮問委員会(通称五賢人委員会)の報告書では、「1993年の経済成長率の下方修正」、「旧西独ではゼロ成長」と悲観的な予測となっている。連邦経済省の『経済白書』や五大ドイツ経済研究所などの基本的、かつ最新の資料を駆使して、今後のドイツ経済の推移を追ってきたい。使用資料はプリントで配布するが、その背景を理解するために日本語の論文文献も使用する。

外書講読(仏)

前 田 祝 一

『フランス系カナダ』という本を少しずつ読んでいきます。400年来のフランス人のカナダ入植の歴史、カナダの特にケベック市モントリオール市を中心としたフランス語圏の経済、政治、文化、さらには自然的風土などが具体的に理解できるよう、地図、図版、スライド等を利用もしたいと考えています。テキストはすでに日本語訳も出版されていますので参考にすればよいと思います。

〔教科書〕Raul Blanchard: Le CANADA FRANÇAIS, (Coll. Que sais-je) P. U. F. ¥800

〔参考書〕ラウル・ブランシャル: 『フランス系カナダ』文庫クセジュ(白水社) ¥900

外書講読(中)

松 本 丁 俊

隣国中国は広大な国土と11億の人口を擁し、長い歴史と高度な文化伝統を持つ社会主義国家である。日本人の現代中国に対する認識や日中関係の現状はどうであろうか。本講では日本と中国を比較する論文を読み進めつつ、上述の問題点を学生諸君とともに考慮する。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕随時指示する。

外書講読(ス)

佐 藤 玖 美 子

教材はスペインの新聞から社会全般にわたる今日的な内容のものを選び社会・スポーツ・文化・経済・政治などの分野の文章に慣れると同時に、いままでに修得したスペイン語文法の基礎を活用・応用して語学の向上に努める。

〔教科書〕プリントにして配布します。

外書講読(ロ)

杉 山 秀 子

はじめにやさしく書かれた社会科学文献をじっくり読むことにより、科学文献独特のロシア語の文章スタイルや表現法に馴れてもらい、少しずつ応用力をつけていくようにしたい。テキストは

『Читаем тексты по политической экономии』(Издательство "Русский язык" 著)の抜すいを基本的には使うが、あわせてプラウダ新聞の経済に関する社説や『Международная жизнь』誌等の最新記事もとりあげ、混迷するロシア社会の断面にスポットをあてていきたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布します。

商 法 II

大 野 直 治

前半は、商取引をめぐる商法の体系がどのようになっているのかを概観します。後半は、商取引における重要な信用供与および決済機能を荷っている手形の法制度を体系的に講義します。なお、

授業には、必ず六法全書を持参すること。

〔教科書〕倉沢編『手形法・小切手法 100講』

(学陽書房)

労働法

藤 本 茂

労働法は、諸君が近い将来、就職し、労働生活をおくるなかで、身近に接する法領域です。今日、労働法は、社会の大きな変化の中にあります。労働契約法制、男女雇用機会均等法、労働時間を中心とした労働基準法の改正は、その一端です。また、労働組合法領域も、労働組合運動のあり様に関する考え方の変化とともに、日常の組合活動の保障、労働協約による労働条件決定をめぐるテーマが重要になっています。

授業は、諸君が見聞するであろう事項を念頭に、労働法上の基礎的な考え方を、なるだけ具体的な事例を用いておこなうつもりです。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………1	教育経済論(谷敷 正光)……………12
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………12
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………1	財務会計論(遠藤 孝)……………13
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………1	管理会計論(中原 章吉)……………14
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………1	会計監査論(飯岡 透)……………14
哲学史(中村 友太郎)……………1	商業政策(岩下 弘)……………15
インド仏教史(田上 太秀)……………2	貿易論(古沢 紘造)……………16
中国仏教史(佐藤 達玄)……………2	マーケティング(曾我 信孝)……………16
日本仏教史(石川 力山)……………2	原価計算論(加藤 利安)……………17
日用経典(皆川 広義)……………2	労務管理論(前期:石井 脩二)……………18
仏教美術(中島 亮一)……………2	(後期:庄村 長)
現代哲学概説(田島 節夫)……………2	行政法Ⅱ(斎藤 寿)……………18
上代文学(小野 寛)……………3	民法Ⅳ(1)(青山 尚史)……………19
中世文学(水原 一)……………3	民法Ⅳ(2)(青山 尚史)……………19
近世文学(富士 昭雄)……………3	比較憲法(竹花 光範)……………19
近代文学(菊地 弘)……………3	経済法(川井 克俊)……………19
中国文学(中村 璋八)……………3	国際関係論(首藤 素子)……………19
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………3	西洋政治史(浦田 早苗)……………20
英文学特講Ⅱ(高野 正夫)……………3	宣伝広告論(上條 末夫)……………20
英文学特講Ⅲ(岡崎 寿一郎)……………3	政党論(岩井 奉信)……………20
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………4	経営統計(後藤 儀一郎)……………20
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………4	国際経営論(桑名 義晴)……………20
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………4	保険経営論(石名坂 邦昭)……………20
英米演劇特講(落合 和昭)……………4	財務会計論(渡邊 恵一郎)……………21
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………4	経営分析論(片桐 伸夫)……………21
米文学特講Ⅲ(原川 恭一)……………4	税務会計論(高木 克己)……………21
時事英語(坂本 武)……………5	経営労務論(中村 真人)……………21
地形学Ⅰ(小池 一之)……………5	商業史(山田 勝)……………21
地質学(貝塚 爽平)……………5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………21
人口地理学(土谷 敏治)……………5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子)……………21
応用地理学Ⅰ(鶴見 英策)……………5	国文講読Ⅲ(中世)(藺部 幹生)……………22
文化地理学(菱口 善美)……………5	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………22
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)……………5	国文講読Ⅴ(近・現代)(田澤 英藏)……………22
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(安藤 正士)……………5	国文講読Ⅴ(近・現代)(尾形 国治)……………22
歴史哲学(麻生 建)……………6	国文特講Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)……………22
哲学史(丸山 豊樹)……………6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)……………22
日本民俗学(谷口 貢)……………6	時事英語(岡本 誠)……………22
マスコミュニケーション(川本 勝)……………6	英語演習Ⅰ(岡本 誠)……………22
産業社会学(安藤 喜久雄)……………6	計算機言語概論(杉田 徹)……………23
都市社会学(江上 涉)……………6	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)……………23
社会福祉発達史(林 千代)……………6	応用計測学(櫃尾 英次)……………23
ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)……………7	
社会政策(光岡 博美)……………7	
国民所得論(吉野 紀)……………8	
中国経済論(小杉 修二)……………9	
アジア経済論(小林 英夫)……………10	
日本経済史(古庄 正)……………10	
中小企業論(三井 逸友)……………11	

他学部履修科目

禅学特講 I

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講 II

黒 丸 寛 之

道元禅師と『法華経』について、『正法眼蔵』の所説を中心として講述し、併せて良寛の『法華転』『法華讃』を読む。主な講本となる『正法眼蔵』は、既刊本の何れでもよいから、各自に必ず用意して受講されたい。

禅学特講 III

石 井 修 道

平成4年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕石井修道『禅語録』（中央公論社）

¥5,200

荒木見悟『大慧書』（筑摩書房）

¥3,500

禅学特講 IV

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕田上太秀『禅の思想』（東京書籍）

¥1,009

『禅語散策』（東京書籍）¥1,000

中国仏教史

佐藤達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修

『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉

〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

川岸宏教・速水侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

〔教科書〕テキスト、プリント配布

仏教美術

中島亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとおして新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレーゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の主要部分を含むテキストとしては田島著『現象学と記号

論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』
(世界書院) ¥2,500

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』(笠間書院)

中世文学

水原 一

『新古今和歌集』は『万葉集』『古今集』と共に和歌史上特視すべき勅撰集である。日本美学史の上にも画期的な中世美を実現させた。これを教材として作品の解釈・鑑賞、歌人・歌壇の考察・言語美の探求などを実践する。

〔教科書〕久保田 淳『新古今和歌集』(桜楓社)

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

〔教科書〕萩原恭男 校注『芭蕉おくのほそ道』
(岩波文庫) ¥410

近代文学

菊地 弘

前期は有島武郎の小説と評論と、後期は芥川龍之介の小説と評論をとりあげ、その固有の文学を考察する。

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,170

英文学特講 I

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社)

英文学特講 II

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの物語詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講 III

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の

検証を経て、ハーディ、イェイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオットの現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イェイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになる。そのため有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義、ニュー・ヒストリシズムなどの批評的考え方を講義します。同時に、作品の読み方と研究の仕方を覚えるためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになる。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および、適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

前期は悲劇、メロドラマ、コメディの劇の要素（筋、登場人物、テーマ、台詞、音楽、背景等）について学ぶ。

後期は演劇史に見られる主義（～ism）をギリシャ時代から現代にいたるまでを時間が許すかぎり追ってみたい。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。課題としてはレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程）ほど提出してもらう。

米文学特講Ⅰ

東 雄 一 郎

十七世紀のアメリカ女流詩人、アン・ブラッドストリートから二十世紀のシルヴィア・プラスまで、約四十六人の詩人の作品を読みます。ホイットマンの〈自我の歌〉、ポーの「詩の原理」、世紀末から出発したフロスト、パウンドやエリオットのモダニズム、フォーマリストのステイーヴンズ、客観主義の即物的実践者ウィリアムズ、物質文明の神を呪詛したギンズバーグとビート詩人たち（デニーズ・レバトフ、ロバート・クリーリー等）の作品から、新世界・「楽園」の夢への憧憬、自負、挫折を考えてみます。アメリカ詩の新鮮な驚きを堪能して下さい。さらに、ハート・クレインに見られる原始主義を考え、神話のない国の包括性に言及します。

〔教科書〕新倉俊一著『アメリカ詩の世界』

（大修館）¥1,900

米文学特講Ⅲ

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廢をもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点を構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選 - 風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものになりたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

〔教科書〕貝塚爽平著『平野と海岸を読む』(岩波書店) ¥1,200

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

鶴見 英策

地理学の知識と考え方及び手法を用いて行う環境調査、災害調査と予測、土地評価など、各種の調査について具体的な事例をもとに解説する。

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ(近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ(近・現代)

安藤 正士

第2次大戦後から現在に至る日中関係を考察する。主な観点は、

- I. 時期区分
- II. 国際政治における日中関係の位置づけ
- III. 各時期における両国間を連系する主要な要素とイシュー
- IV. 日本の各時期における代表的な中国論など、政治、経済、文化など広い視野から資料を提示して講義を行う。

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山 豊樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学との関係を明確に示せるように講義を進めたい。

〔教科書〕講義中に、その都度指示する。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容

過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』（学文社）¥2,500

都市社会学

江上 渉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、

方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かとはもかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論の歴史
 - (2) マルクスの社会主義論
 - (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
 - (2) 工業化と農業集団化
 - (3) ソ連型「社会主義」の特質
 - (4) ソ連・東欧経済圏の形成
3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型経済管理システム
 4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造の特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
 5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
 6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 史上経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート(9月提出、40点配点)と定期試験(自筆ノート持込み可、60点配点)によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光 岡 博 美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労

働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史(戦前期)
- (4) 日本における社会政策の歴史(戦後期)
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本の労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作(映画)を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの中でさまざまな生産

活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産(GNP)440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ(巨視的)分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

「平成2年日本経済の循環図」(配布資料)

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡(日経文庫)

「総需要、均衡産出量、均衡所得」……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷(日本評論社)第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」……………4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では1律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学(上)』ドーンブッシュ・フイッシャー(マグローヒル)第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」
..... 4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わせられる。

「最終講義」..... 1回

平成5年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験 85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件） 15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2につづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在

および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合であろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合であろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合であろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ（1-201または1-301 教室）上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオをみる。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事（中国経済）を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である（学説の受け入れとは異なる）。テストは基準となる一つの学説（とりあえず、私の説）の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,300

アジア経済論

小林 英 夫

今日ほどアジアが注目されるようになった時期もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が注目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヵ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス（NIC S）と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式で行なう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、一昨年は野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係（戦後日本とアジアの関係を、I. 賠償過程、II. 借款過程、III. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行なう。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動（1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する）

1月

まとめ（1年間の講義について、まとめを行なう）

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』（御茶の水書房）

¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』

（日本評論社）¥3,200

日本経済史

古 庄 正

幕末期の日本は、極東の一封建国家に過ぎなかった。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の帝国主義国にのしあがった。幕末開港後のこうした日本経済の歩みを、出来るだけ系統的に、また分かり易くお話ししてみたいと思っている。お話しする中身としては、今のところ次のテーマを予定している。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と華族の資本蓄積
- (6) 農民の半プロ化と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績業と製糸業の発展
- (10) 海運と鉄道の発展
- (11) 鉱山業と重工業
- (12) 寄生地主制と資本主義
- (13) 外国貿易の発展
- (14) 産業革命と公害
- (15) 産業革命と民衆
- (16) 日清・日露戦争と植民地支配

ところで、経済史をも含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。経済史研究の究極的課題は、人類史の中で今われわれがどのような地点に立っているのか、また、どこに行こうとしているのかを、「経済の深み」から具体的・歴史的に明らかにすることにある。日本経済史の場合もちろんその例外ではない。かつて、圧政と貧困から人類を救い出す社会体制として期待された社会主義がソ連・東欧諸国を初めとして瓦解し、残存する社会主義大国中国も、ある種の資本主義国に転換しつつある今日、来し方は分かっても、行く末は不透明なものとなった。「昔は歴史というものがあったが、今はもうない」ということになるのかどうか、この点についての回答は近い将来には期待できそうもない。それだけに、歴史を学ぶ必要は一層強まった、といつてよい。新聞を読んでいて「中国や韓国などアジアの人たち

と話していて感じるのは、日本についての権威と信頼のギャップである。日本の権威は高まっているものの、信頼の方は逆に低下しているのだ」（『毎日新聞』1992・11・27）という記事が目についた。「信頼は金では買えない」という表題のこの囲み記事で筆者が言いたかったことは、アジアの民は、日本が大国として行動することを受入れながらも、日本に対して不安と警戒心を強めている、ということであろう。第二次大戦中、日本はアジアの諸民族に計り知れない被害をあたえた。にもかかわらず、戦後半世紀たった今日でも戦後責任には目をつむり、その反面では、PKOへの参加を突破口として海外派兵の実績を積み重ねていることがその背景にある。特に植民地朝鮮からは、百万人を越える人々を軍人・軍属・従軍慰安婦・一般労働者として強制連行し、多くの人々を死傷させたにもかかわらず、日本政府と関係企業は何の補償もしなかったばかりか、謝罪さえ拒否してきた。軍の関与を示す決定的な証拠を突きつけられ、従軍慰安婦問題については一応「謝罪」し「真相究明と適切な措置」を約束したが、結局「真相究明」はせず、若干の補償金を支払うことで解決を図ろうとして、被害者と韓国政府の強い反発を招いている。日本政府と関係企業の韓国・朝鮮をはじめとするアジアの被害者に対するこうした傲慢な対応は、決して許されるべきではない。が、それと同時に、過去百年の日韓・日朝間の歴史についてのわれわれの無知・無関心が、これを放任していることも忘れてはならないだろう。日本が再びアジアの、そして世界の孤児にならないためには、日本政府と関係企業のこうした歴史認識を根本的に改めさせねばならない。しかし、そのためには、われわれ自身が歴史について無知・無関心であってはならない。歴史を学ぶことの必要性は、もちろんアジア諸民族との関係だけではない。国内問題についても同様のことがいえる。例えば、今日最大の社会問題となっている「環境問題」について、日本政府も企業もしばしば言及している。しかし「環境破壊」の主因をなす公害については、政府も企業も足尾鉾毒事件からは何一つ学ぼうとはしていない。水俣病患者の訴訟に対する冷酷な措置は、それを例証している。

中小企業論

三井逸友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、今日こそさまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さら

に21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業者の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられる。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐるこれまでの理論・研究を批判的に検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直しの動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。
<構成予定>

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の

専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』

(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ』

(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』

〔各年次〕

『エコノミスト増刊、図説日本経済

1993』(毎日新聞社)

教育経済論

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を究明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、年間5～6回程、その都度現実的理解のために視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育
①アメリカ、②イギリス、③フランス、④ドイツ、⑤日本
- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興
①学制時代、②学校令時代、③実業学校令時代
- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興
①復興期、②高度成長期、③1970年代、

④1980年代、⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

文部省『産業教育百年史』

(ぎょうせい)

本庄良邦『産業教育体制研究』

(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をします。それとともに、アメリカでのできごとと関係の深い世界の情勢を、ひろく検討します。

とりあげるテーマには、おおむね次のようなものを予定しています。

前期

〔導入の話題〕

◇新大統領の経済政策とアメリカ経済の近況

〔総論〕

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

〔アメリカ経済各論〕

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

〔世界とアメリカ〕

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

〔アメリカと世界の諸地域〕

- ◇アメリカとEC
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカと発展途上諸国
- ◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むすびの話題]

- ◇アメリカの現状と経済学（あたらしい学派の見解）

講義では、一回ごとにひとつずつ（上記の◇）テーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥深く興味のつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものです。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、楽しくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるように心がけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

なお、この講義は、3年生、4年生いづれもが受講できることはいまでもありませんが、さきに述べたこの講義の性格からいえば、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義

については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりです。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果すものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

① 4月第1週

企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か、その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。

② 4月第2週

先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。

③ 5月第1週

財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。

④ 5月第2週

先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。

⑤ 5月第3週

貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。

⑥ 6月第1週

資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。

⑦ 6月第2週

資産評価について。固定資産の評価，土地評価，減価償却について。

- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性，繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について，引当金とは何か，引当金の設定基準—商法，「企業会計原則」の引当金，引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容，会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査，商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査，証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化，会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本，世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
—総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張，大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。

〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原章吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は，多くの人にとって，大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも，ある段階に達するまでには，何段もの階段を一段一段上がってゆかねばなりません。この「管理会計論」は，その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は，企業の「ことば」である会計，その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができるといえます。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して，「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は，管理会計の本質，体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思ひます。

後期は，管理会計の豊富な各論のなかから，「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については，その企業の健康診断としての役割を，方法とその留意点，収益性の分析，生産性の分析，安全性の分析，総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については，経営計画とくに要員計画と付加価値会計，経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年度で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおく講義が理解しやすいと思ひます。例えば，『企業会計の基礎構造』創成社

〔教科書〕中原章吉編著『経営財務と管理会計』
(中央経済社)

会計監査論

飯岡透

会計監査の目的は，企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて，監査人が意見を表明することであり，企業規模の拡大，利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い，近年，その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の意義と役割
 - (1) 会計監査の意義と機能
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国の監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国の監査制度の展開
3. 監査役と会計監査人
 - (1) 監査人の種類とその要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限
 - (4) 監査役および会計監査人の義務と責任
4. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 合理的証拠とその決定要因
5. 監査手続の種類と内容
 - (1) 監査手続の意義と分類
 - (2) 監査手続の内容
6. 内部統制と試査
 - (1) 内部統制の意義と構成内容
 - (2) 内部統制の調査範囲と調査手続
7. 予備調査と監査計画
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的と種類
8. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
9. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 監査報告書の記載内容
 - (4) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、簿記、財務会計論の講義を履修し、財務諸表について、十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材については、最初の授業時に指示する。

商 業 政 策

岩 下 弘

〈授業項目〉

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画

- 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 79年改正法
 - 3) 91年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策一都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小小売業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場
 - 3) 生業権論
- 七 流通問題と消費者保護政策
 - 1 消費者問題論
 - 2 消費者保護基本法
 - 3 消費者行政
 - 4 生協
- 八 流通問題と独禁政策
 - 1 独占禁止法
 - 2 不公正取引
 - 3 取引慣行

以上

〈成績評価〉

試験、レポート、出席により評価する。
〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

〈授業内容〉

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I - VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

〈評価方法〉

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思います。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

〈教材〉

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪ねたらよい機関を紹介します。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室（第2研究室館4階34号室）を訪ねる人もいます。

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設立の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャンネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応

- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならないマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

〈評価の方法〉

- ① 年一回の定期試験…70%
 - 夏休中の課題 …20%
 - 出席状況 …10%
- ② 評価基準
 - 講義内容の理解 …60%
 - 問題意識 …30%
 - 分析力・応用力 …10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）¥4,000

〔参考書〕三浦信・来住元郎・市川貢『マーケティング』（ミネルヴァ書房）¥2,200
 石原武政『マーケティング競争の構造』（千倉書房）¥2,800

原価計算論

加藤利安

〈基本的な視点（問題意識）〉

経済的、社会的環境の構造的変化（たとえば、為替相場の変動、国際貿易摩擦、国際化、ハイテク化、高度情報化、経済のソフト化やサービス化、高齢化、就業意識の変化、消費者の価値観の多様性、女性の社会進出、環境問題の対応）によって抜本的な経営改革の必要性の強調＝リストラクチャリング（生産、販売システム等すべての事業組織の再構築）とグローバル経営が標榜されている今日、これら経済的、社会的環境の構造的変化は企業会計の研究にとっても無関係ではないだろう。もし、そうであるならば、それは原価計算の領域にとってもあてはまるだろう。なぜならば、原価計算は計数的技法として企業会計の一領域を形成し、諸種の計算目的の達成を通じて企業経営組織に貢献するものと考えられてきたし、また今後もそうであると考えられるからである。

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的

手段体系として、その成立の当初から現在に至るまで、さまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果す目的を5つ列挙している。換言すると、ここでは財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに、最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が議論されている。このように、一定の時代的環境状況の認識の下である特定の社会的役割を果すべく設定されてきた「原価計算基準」も、変容した今日的な経済的、社会的環境下においてその現実的課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしているが、一定の経済的、社会的環境の下で企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、計数的技法としての原価計算が当該目的達成のための手段であるとすれば、目的手段体系の因果的把握が可能となるのではないだろうか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の「原価計算基準」を所論展開の出発点としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを会計現象の一つとして捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することを心掛けることにした。

〈授業計画〉

前期では、原価計算の基礎的考察として原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。ここでは主として、意思決定指向的な原価計算について検討を加える。

〈評価方法〉

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験を行う。

〔教科書〕最初の授業前に指示する。

〔参考文献〕授業時に適宜挙げる。

労務管理論

前期：石井 脩 二
後期：庄 村 長

〈講義目的〉

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめています。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実を生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実と焦点を併せ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業が作りあげてきた強い競争力そのものが問われはじめています。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものが妥当性を問われているということにほかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているのかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめています。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝

えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序 章

労務管理ないし人的資源管理とは（4月）

第1章

日本企業が直面している諸問題（4月～5月）

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き（6月）

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開（6～7月）

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

行政法 II

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（１）

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の大要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛治良堅著『親族法講義』（啓文社）

民法Ⅳ（２）

青山尚史

民法Ⅳ－(2)は、相続法（民法典第5編 882条～1044条）である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛治良堅著『相続法講義』（啓文社）

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国の

シンボル等）

4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川井克俊

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトゥデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克俊著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首藤素子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これでもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2、3、4巻）

西洋政治史

浦田早苗

世界は今、大きな転換期にある。冷戦構造の崩壊と社会主義体制の変革、高度産業化に伴う社会の変質などによって、国家や政党、制度や組織、国民や民族などの近代政治の概念に基本的な検討がせまられている。講義では、歴史政治学的アプローチに則った大局的視方から現在ヨーロッパで問題になっている制度や事件の検討を行う。

宣伝広告論

上條末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

岩井奉信

政党は民主政治の要であるといわれてきた。事実、民主主義国家で政党を主体とする政治が行われていない国はない。しかし、近年、社会的価値の多元化と共に従来の政党政治のあり方が大きな曲り角に来ているともいわれる。本講義では変貌する政党政治という視点から政党とは何か、政党制と選挙システム、政党組織形態などという基本的な問題を論じた上で、日本における政党と議会政治との関係とその変化について、実証的に学んでゆく。とりわけ自民党とその政治のあり方については最新の資料やデータを用いて、派閥や族議員の問題など今日的なテーマを取り上げ、具体的にかつ体系的に論じてゆく予定である。

〔教科書〕岩井奉信『国会議員の研究』（日本経済新聞社）近刊

岡沢憲英『政党』（東京大学出版会）

〔参考書〕岩井奉信『族議員の研究』

（日本経済新聞社）

岩井奉信『政治資金の研究』

（日本経済新聞社）

経営統計

後藤儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学は、もはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものではない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながら、それらが実際においてどのように応用（たとえば統計的品質管理）されるかを学習する。

〔教科書〕吉野紀・後藤儀一郎著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

国際経営論

桑名義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本の経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

保険経営論

石名坂邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩みなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中であって高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては、各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的问题を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

渡 邊 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高 木 克 己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行く。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業に働く人々の仕事の現実について考えていきたい。現代日本企業の労務管理諸制度と労働問題を考察の素材とする。

はじめに、問題をとらえるための基本的枠組として、労働市場と分業について話す。つづいて、雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係という個別の事柄へと話を進めていく予定である。

商 業 史

山 田 勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐 原 作 美

『万葉集』の中から代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌を中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社）¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

鈴 木 裕 子

今年度は、『源氏物語』を、若紫巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』一（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

菌部幹生

『発心集』を読む。本作品は鴨長明の有名な説話集であるが、本講座では、著者の思想そのものよりも、一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕その都度指示する。

国文特講Ⅴ（近・現代）

大室英爾

島崎藤村の作品を読む。その人間と文学の統一されたかたちを長い作家生涯をかけてどのように作りあげていったか。詩及び散文の読みを通し、彼をとりまくあらゆる「外圧」を視野に入れつつ考えていきたい。本年度は「春」が中心となろう。

〔教科書〕各種文庫本。開講時に指示。

国文講読Ⅳ（近世）

清田啓子

安永天明期の知識人の機智をあつめて成立した黄表紙を、その生成から完成、下降まで、作者の個性を追いながらたどってみたい。

〔教科書〕プリント

英文タイプライティングⅡ

竹内美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

国文講読Ⅴ（近・現代）

田澤英藏

「吾輩は猫である」（夏目漱石）を通読する。また、同じ頃に書かれた「倫敦塔」「カーライル博物館」などにも触れてみたい。

〔教科書〕開講後に指示する。

時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

国文講読Ⅴ（近・現代）

尾形国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12～3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

英語演習Ⅰ（ディクテーション）

岡本誠

慣用語の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点以上をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉 田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による
実習

〔教科書〕 コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
(サイエンス社) ¥1,854

臨床放射線特論 I

本 間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係の仕事につく人に必要な知識といえる。

〔教科書〕 定めず

応用計測学

櫃 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器 (ガンマカメラ, シングルホトンECT, ポジトロンCT), X線CT装置, MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置, DSA, CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
(コロナ社)

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦)	1
教育原理 (北村 三子)	1
教育原理 (坂本 信昭)	1
教育原理 (村山 輝吉)	1
教育原理 (小山 一乗)	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 眞理子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (難波 和明)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動 (中野日 直明)	3
生活指導 (遠藤 司)	3
生活指導 (佐藤 尚人)	3
宗教科教育法 (小山 一乗)	3
国語科教育法 (神谷 道倫)	4
書道科教育法 (那須 隆吉)	4
英語科教育法 (荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法 (長野 覚)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (大久保 治男)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一)	6
商業科教育法 (谷敷 正光)	6

道德教育の研究 (上岡 安彦)	7
教育実習 (上岡 安彦)	7
教育実習 (坂本 信昭)	7
教育実習 (村山 輝吉)	7
教育実習 (北村 三子)	7

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

教育哲学 (汐見 稔幸)	7
教育社会学 (高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	8
教育評価 (大浜 幾久子)	8
教育情報学 (難波 和明)	8
教育調査 (鈴木 規夫)	8
教育史 (北村 三子)	8
教育関係法規 (広沢 明)	9
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設 (村山 輝吉)	(9)
図書館学 I (山崎 慶子)	(9)
図書館学 II (源 昌久)	(9)
青少年問題研究 (前期: 中野 東禅)	9
(後期: 和田 謙寿)	
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎)	9
教育法規研究 (神田 修)	9
児童文化 (湯山 厚)	9
宗教教育 (松本 皓一)	10

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説 (粟野 俊之)	10
日本史概説 (小松 寿治)	10
世界史概説 (井村 行子)	10
世界史概説 (渡辺 惇)	10
地誌学概説 (橋詰 直道)	10
地誌学概説 (長野 寛)	10
地誌学概説 (宮口 侗迪)	11
人文地理学概説 (小林 高壽)	11
自然地理学概説 (早船 元峰)	11
自然地理学概説 (安部 喜也)	11
民法 I (青野 博之)	11
民法 I (林 幸司)	12
政治学原論 (大塚 桂)	12
社会学原論 (渡辺 源樹)	12
経済原論 (阿部 弘)	13
経済原論 (荒木 勝啓)	14
経済原論 (小野 俊夫)	15
哲学概説 (篠原 壽雄)	15
哲学概説 (国嶋 一則)	15

倫理学概説 (久保 陽一)	15
宗教学概説 (洗 建)	15
宗教学概説 (松田 文雄)	15
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	(15)
民間信仰論 (谷口 貢)	15
東洋思想研究 (館野 正美)	16
民衆宗教成立史 (洗 建)	16
歴史哲学 (麻生 建)	16
日本文化史 I (廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説 (中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史 (井上 順孝)	16
日本仏教史 (廣瀬 良弘)	16
【職業】	
産業概説 (前田 幸一)	17
職業指導 (山田 勇治)	17
商業実習 (前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導 (山田 勇治)	(18)

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I (山崎 慶子)	19
図書館学 II (源 昌久)	19

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	20
社会教育計画 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (村山 輝吉)	20
社会教育実習 (上岡 安彦)	20

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) ..	(20)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	20
青少年問題研究 (前期: 中野 東禅)	21
(後期: 和田 謙寿)	
社会教育施設 (村山 輝吉)	21
図書館学 I (山崎 慶子)	(21)
博物館学 I (倉田 芳郎)	(21)
博物館学 II (竹内 順一)	(21)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	21
社会体育 I (古田 潤子)	21
社会体育 II (古田 潤子)	21
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(22)
教育原理	(22)
教育心理学 (教育方法論を含む)	(22)
青年心理学 (教育方法論を含む)	(22)
社会心理学 (坪井 健)	22
教育社会学 (高島 秀樹)	(22)
教育調査 (鈴木 規夫)	(22)
教育史 (北村 三子)	(22)
児童文化 (湯山 厚)	(22)
社会教育行政 (牧野 篤)	22

成人学習論 (牧野 篤)	22
--------------------	----

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学 I (倉田 芳郎)	23
博物館学 II (竹内 順一)	23
教育原理	(23)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(23)
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	23
博物館実習 I (館務) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	23
博物館実習 II (収集) (倉田 芳郎・所 理喜夫・ 葉貫 磨哉・太田喜美子) ..	23
考古発掘実習 (千葉 基次)	24
博物館実習 III (見学) (倉田 芳郎・太田喜美子) ..	24

(2) 選択必修科目

日本文化史 I (廣瀬 良弘)	24
インド仏教文化史 (奈良 康明)	24
西洋文化史 III (三小田 敏雄)	24
仏教美術 (中島 亮一)	24
現代美術 (宮崎 克己)	25
禅美術 (海老根 聰郎)	25
美術史概説 (中島 亮一)	25
西域美術史 (相馬 隆)	25
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	25
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	25
考古学特講 II (高浜 秀)	25
考古学特講 IV (飯島 武次)	25
日本民俗学 (谷口 貢)	26
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	26
地形学 I (小池 一之)	26
地質学 (貝塚 爽平)	26

社会福祉主事

V 社会福祉士基礎講座

社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一)	27
※社会福祉原論 (原田 信一)	27
※老人福祉論 (中野 いく子)	27
※障害者福祉論 (原田 信一)	27
児童福祉論 (高橋 重宏)	27
※社会保障論 (近藤 功)	28
※公的扶助論 (伊藤 秀一)	28
※地域福祉論 (和田 敏明)	28
※心理学 (福祉) (井上 孝代)	28
※社会学 (福祉) (江上 渉)	28
※法学 (福祉) (小林 弘人)	28

リハビリテーション論 (原田 信一)	29
社会福祉計画論 (坂田 周一)	29
社会福祉運営論 (坂田 周一)	29
家族福祉論 (田村 健二)	29
医療福祉論 (春見 静子)	29
婦人福祉論 (林 千代)	29
保健福祉論 (安梅 勅江)	30
社会福祉発達史 (林 千代)	30
海外社会福祉論 (中野 いく子)	30

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注 () 頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
(岩波文庫)

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

若者の生き方を歴史的に展望することを通して、近代の青年期教育思想の性格を吟味したい。講義は、近代以前の若者の有り様を概観した後、近代青年期の成立とその特性にふれ、次いで青年期教育思想の検討へと進む予定である。

〔参考書〕教場で指示

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える

12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所)¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
(学芸図書)¥950

デューイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
(岩波文庫)¥200

西村絢子他『現代教育を考える』
(昭和堂)¥2,600

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

教 育 原 理

こ やま かず のり
小 山 一 乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象や用語を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けている用語についてもとりあげてみたい。基本的な留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法(教授学習・生活指導)、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師論。生涯学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』

(学芸図書) ¥950

『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200

小中高各『学習指導要領』(文部省,
各¥230, ¥250, ¥370)

『生徒指導の手引』(文部省¥460)

〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノ
ート(エイデル研究所) ¥1,800

教育心理学

(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学

(教育方法論を含む)

遠 藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学

(教育方法論を含む)

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時紹介する。

教育心理学

(教育方法論を含む)

中 村 均

1. 発達

どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達的变化の概観。

2. 学習

どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。

3. 個人差

一人ひとりの違いの把握について。

4. 教育方法

教育メディアを利用した教育方法について。

〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

教育心理学

(教育方法論を含む)

難 波 和 明

動機づけ、ATIなどを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

〔教科書〕その都度指示する。

青年心理学

(教育方法論を含む)

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学

(教育方法論を含む)

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始め、友達と比較をしたりして色々悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多

い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってもらう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。
〔教科書〕使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学－青年心理学』（学文社）¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』（明治図書）

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』（エイデル研究所）¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかんにかして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』（福村出版）¥2,200

宗教科教育法

小山 一乗

まず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討す

る。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』
(曹洞宗宗務庁) ¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』
(大法輪閣) ¥1,600
『教育小六法』(学陽書房) ¥2,200
小中高各『学習指導要領』(文部省,
各¥230, ¥250, ¥370)
『生徒指導の手引』(文部省¥460)
その他必要に応じて指示する。資料を
配布するのでファイルを用意しておく
こと。

- 〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版,
1985年)
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』(桜楓社) ¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特徴を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕未定
〔参考書〕適宜指示する。

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』
(成美堂) ¥2,200
〔参考書〕荒井良雄『英語英文学とともに』
(新樹社) ¥2,060

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

長野 覚

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などを具体的に指導する。後期は授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(地理))

中島 義一

社会科(地理歴史)教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法

(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(歴史))

野呂 肖生

「中学校で社会科、高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科・地理歴史科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法

(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら、社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科公民科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

[教科書・参考書] 適宜指示する。

社会科・公民科教育法

(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

谷 敷 正 光

<授業内容>

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を廃止し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならぬ。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原理とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

<授業形態>

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

<授業項目>

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科

6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

<履修条件>

出席を確認する。

<成績評価の方法>

定期試験は行わないが、授業での課題の提出、学習指導案の作成、授業実践などで総合的に評価する。

[教科書] 大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

[参考書] 遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

石川達三著『人間の壁』(新潮文庫)
灰谷健次郎著『兔の眼』(新潮文庫)
無着成恭著『山びこ学校』(角川文庫)
その他、若干のルポ、小説、社会科・公民科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

- [注 意] ①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法

(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、公民科の教科教育法により効果的实践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別にし模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講

義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

〔参考書〕宮地誠哉・倉内史郎編『職業教育』（開隆堂）

近藤大生・有本章編著『職業と教育』（福村出版）

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の育成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況のなかで迂回曲折してきたのも事実であり、周知のように、高等学校の社会科は公民科と地歴科の二科に再編されることとなった。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言ってよからう。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

商業科教育法

や しき
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従つて、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから、「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われている。昨年度も商業科の教員志望者は多数採用されているので、しっかり勉強して教師をめざして欲しい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・職業教育
2. 職業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

職業科教育法

前 田 幸 一

〈講義目的〉

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

〈授業内容〉

基本的には以下の項目に沿つて授業を進めていきます。

- (1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- (2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。
- (3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

〈評価方法〉

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』

（新潮文庫）

灰谷健次郎『兔の眼』（新潮文庫）

竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に会場には注意しておくこと。

についての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成→提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』

（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

西村絢子他『現代教育を考える』

（昭和堂）¥2,600

道徳教育の研究

上岡安彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

上岡安彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デュエイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デュエイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる技術・技能を主題に、文献を読み合い討議をしたい。

教育実習

坂本信昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などに

(2) 教職に関する専門科目（選択）

教育哲学

汐見稔幸

今年度も学校に焦点をあて、文化の変容と学校

という基本テーマを立てて議論し合いたいと思います。今日の学校で生じている諸問題の多くは、社会の行動様式や価値観が大きく変化しているにもかかわらず、学校の内側がそれに見合って変わっていないことから生じていると考えられます。新しい学校はどうあるべきか、コンピュータ教育をどうすべきかなどいくつかの角度から、現状を批判しつつ、考えてみます。教職を希望しつつも、教育の今後を少し理論的に考えようという人を歓迎します。参加者の意志によりますが、年何回かの簡単な合宿を行なう予定です。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいままでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育（家族、遊びと仲間集団、地域社会など）と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』（明星大学）¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」にとどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著

『生活世界を旅する—ライフステージの社会学』（福村出版）
1993年3月刊行予定

教育評価

大浜幾久子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法—実験・観察・調査・テスト—の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

難波和明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴木規夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北村三子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法，教育基本法，子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき，具体的事例に触れながら講義を行う。校則，体罰，内申書，日の丸・君が代，教科書検定，学校事故，障害児教育，民族教育など今日的な教育問題について，法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P.20) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P.21) 参照

図書館学Ⅰ

山 崎 慶 子

(P.19) 参照

図書館学Ⅱ

源 昌 久

(P.19) 参照

青少年問題研究

前期：中 野 東 禅
後期：和 田 謙 寿

開講時に指示します。

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P.23) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は，必ずしも適正なものとはいいがたい。そのために，感受性に富む若い人たちが，社会のもつさまざまな矛盾を，「問題」というかたちで表現してもいる。

本講義では，社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ，その発生の機序と対応について，心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

憲法と教育基本法，教育と権利，学校教育・教師と法，教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』1992年（北樹出版）

③兼子仁，神田修編著『教育法規事典』1991年（北樹出版）

児 童 文 化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか，その史的推移とか，あるいはこれからのあり方は，といったように概論風ではなく，現に身近にある名作物の児童図書や，リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ，それらを歴史的に，あるいは他ジャンルとの関連，さらには公教育，民間教育運動との関係，といった観点からとらえなおし，子どもを取りまく環境の一部ともなっている

文化財をみなおすいとぐちとしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400
H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗教教育

松本皓一

宗教的情操を培うことは円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗野俊之

前半では、日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを、主に政治史を中心として概観する。後半では重要な問題を取りあげて、具体的に考えて行きたい。この際、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小松寿治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井村行子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心に概説する。帝国主義の時代以降に重心を置いていきたい。

〔教科書〕山本・藤縄・早川・野口・鈴木編『西洋の歴史』〔古代・中世編〕（ミネルヴァ書房，1988）¥2,060
大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕（ミネルヴァ書房，1987）¥2,000

〔参考書〕西川正雄・南塚信吾『帝国主義の時代』（ビジュアル版）世界の歴史18（講談社，1986）¥1,500

世界史概説

渡辺惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋詰直道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関わり方など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長野寛

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国、および中華人民共和国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、教科書・参考書は開講後に指示する。

地誌学概説

宮口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

自然地理学概説

安部 喜 也

地球表面の自然を構成する要素としての地形、水、気候、植生等のそれぞれの分布および変動の要因について解説し、また自然のシステムにおける要素の相互関係について考察する。後半には環境としての自然について論ずる。

人文地理学概説

小林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か(本質論)②人文地理をどう教えるか(教授論)③教える立場と教わる立場の考察(教育論)④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか(体系論)⑤自然環境及社会環境とは(相互作用論)⑥地図と地理統計をどう読むか(教材論)⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか(主体論)⑧人文地理の教育と研究について(教養論)等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計(小冊子になっている)は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教職のための地理学トピックス』(大明堂)¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳(アトラス)と、二宮書店編の『地理統計』

民法 I

青野 博 之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみるようにできるようなれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者はそれほど多くないことが予想されるので、私から受講者に質問しつつ、受講者に自分で民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一一八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者が契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法(民法一一九条から三九八条の二二

自然地理学概説

早船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意(10枚程度)させ、それらをもとに種々なる作業(土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成)をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕氷見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』(大明堂)¥3,600

まで)。

9月, 法律行為(たとえば, 契約を取り消すことができるのはどんな場合か, 契約を取り消すかどうかという結果になるか), 期間, 時効(たとえば, 時効という制度はなんのために認められているか)。

10月, 物権総論(たとえば, 物権は債権とどこが違うか), 物権変動(たとえば, マンションを買った場合には何をしなければいけないか)。

11月, 占有権, 所有権, 用益物権(たとえば, 土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月, 担保物権(たとえば, 土地を買うためにお金を借りやすいのはなぜか)。

1月, 質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の始めと終わりに答えるが, それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数, およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので, これに答えてくだされば, これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく, 自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので, 安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ, 質問をし, 私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また, 私のためにもなる。したがって, 質問および回答はこの講義を進める鍵である。なお, 評価は, 年度末の試験で最終的には決まる。

〈教材〉

教科書: 我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法I(総則・物権法)』(一粒社), 教科書は, 上記のものを使うが, ほかに自分が気に入ったもの, 手持ちのものがあれば, それでもよい。

六法: 憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように, 法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は, 『ポケット六法』(有斐閣), 『コンパクト六法』(岩波書店), 『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので, 新しいものの方が望ましいが, 多少古くても少なくとも受講する上では支障はない。もっとも, 法令索引で「借地借家法」が掲載されているかを調べて, この法律が掲載されているものの方が望ましい。しかし, 借地借家法が掲載されていない六法を買ってしまったとしても単位の取得に致命傷を与えるというほどのものではない。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」第三編「債権」いわゆる「財産法」と呼ばれる分野を対象とし, その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では, 重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し, 『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

大 塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく, 以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念, 史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 現代政治理論

〔教科書〕特に指定せず。

〔参考書〕原田銅『政治学原論』(朝倉書店)

¥5,356

佐竹寛『政治学体系論』(法学書院)

¥3,090

中山政夫『現代政治学』(三和書房)

¥2,575

日下喜一『現代政治学概説』

(勁草書房) ¥2,060

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ, つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら, 集団論・組織論などを中心として基

礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

阿部 弘

〈講義の目的〉

生活に必要なものがすべて「商品」として生産されそれを「おカネ」をだして買ってきて消費をするという社会で私たちは毎日の生活を送っている。私たちの生活にとって重要で有益なものは「富」と考えられている。この商品社会の「富」というのは一体何であろうか？「価値」を生むものが「富」なのだ。価値は、社会に役に立つ・有益である、ということだが、このことは今私たちの商品社会においては「商品」生産の体系の中で言われることである。「売れるもの」でなければ富とは関係がない。この世に存在するものすべてが売買されるものであるわけではないから、このような規定は人間の生活とは離反しているように見える。

私たちは「商品社会」で生活しているというだけではない。商品社会をその基本にもった「資本主義社会」で生活している。資本主義生産様式では生産の目的は利潤（もうけ）の生産にある。私たちが日常買ってくるものも利潤の生産の手段にすぎない。社会にそして私たちに利益になるからそのようなものが商品として生産されているわけだが「役に立つ」と私たちには思えても企業・「資本」は売れてしかも利益にならなければ、いくら「役に立つ」ものでも「商品」として生産はしない。生産されてもそれを手に入れるためには「おカネ」（貨幣）がなくてはならない。「おカネ」は不思議なものでこれさえあればすべてのものが手に入るように思えてくる。「利潤」も株式という形で存在する「資本」を株券を手に入れることで自分のものにできる。「おカネ」がすべてのように思えおカネを手に入れるために種々様々なことをする。社会で「偉い」のはおカネをたくさん所有している人々であるかのようだ。「おカネ」をたくさんもっているかどうかで、何が社会に役立つものなのかどうかという基準も異なってくる。大金持ちの資本家は、ある国家を買収して自分の利潤を生産させる手段にすることもできる。地球の自然環境や自分以外の人間がどのようになろうともそれは二の次としか考えない。「利潤」がもっとも大事なものだからだ。だから私たちが「富」であると思うものと現実の「社会」や社会を支配している人々（階級）が考えている「富」はそれぞれに異なっているのかもしれない。そこ

でその関係を明らかにすることが「富」とは何かを考えていくうえで重要な課題になる。「経済学」は成立のときから「富」とは何かを問題にしてきたのでその歴史は「富とは何か」の歴史である。私たちが生活している社会は「資本主義」の社会であるからこの社会を特徴づけている基本的カテゴリーの分析をつうじて「富とは何か」を明らかにしていくことが「経済学」には課される。その基本的カテゴリーとは「商品」・「貨幣」・「資本」であるから「経済原論」の講義では3つのカテゴリーとその関係を明らかにしそのことが人間相互の関係としてどのような形で表わされるのかを分析して私たちの生活・行動の方向を示す。

〈講義の方法〉

講義は受講生の人数によって異なる。

- ① 人数が50名を超過するばあいには講義の体系をとる。このばあいには年4回のレポートの作成を行い、最初に講師が課題を提起してこれに受講生が応え、2回目以降は受講生が作成してきたレポートを講義を踏まえて、講師が添削して、各自に独自の課題を設定していく。テキストは用いない。4回のレポートの作成は以下の日程で行う。
No.1：7月上旬 No.2：10月中旬 No.3：12月中旬 No.4：定期テストの時
- ② 人数が50名以下のばあいにはグループ分けをして、グループ毎にディスカッションをして2回の個人レポート作成を行う。このばあいには講義はグループ毎への問題の提起という形をとる。ただし受講生名簿がでてくるのが前期いっぱいかかってしまうのでその間は講義の形態をとる。したがって7月上旬に第1回目のレポート作成を行う。

〈評価の方法〉

講義形態①のばあい：評価は4回のレポートを通じて行う。しかし第4回目に関しては「定期テスト」のときを利用するので、教務部で出欠の確認を行うという問題がでてくる。このばあい、欠席者は3回までレポートを作成していても自動的に「失格」となる。

講義形態②のばあい：ゼミナール形式をとるので試験は行わない。ただし2回のレポートを提出しないばあいには失格になる。

受講生の質疑応答等に便利のように講師の連絡先を以下に示す。

研究室：No.2538 Tel:9360

住 所：〒179 練馬区光が丘6-1-4-204

Tel:03-3976-7984

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM分析まで）に限定して行うことにする。

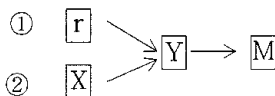
ところでなぜ経済現象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上経常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がると景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてあろう。さて上述の

答案の混乱は、本来この図式の①から出発する現象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ経常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示すように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして、上述の答案は前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、年2回実地研修を行う。予定では(1)証券取引所 (2)大蔵省印刷局である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目ざす。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
(学文社)

哲学概説

篠原壽雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

〔教科書〕『莊子』〔内篇¥360, 外篇¥400〕
(中公文庫)

哲学概説

国嶋一則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

哲学思想の基礎的概念や考え方の解明に重点をおく。また書物の読解力を養成するために、教材の重要な箇所を読んで解説する。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久保陽一

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、－アリストテレス倫理学、キリ

スト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、実存主義等－現代における倫理の問題－国際的正義、生命倫理等－について考えることにしたい。

〔教科書〕プリント等を配布する。

〔参考書〕川戸好武他『西洋哲学の歴史』
(公論社)

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究方法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

(P.26) 参照

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館野正美

本年度は、インド伝統医学（アーユルヴェーダ）、グレコ・アラブ伝統医学（ユナニイ）と並んで、世界の三大伝統医学の一つに数えられる中国古代の医学について、医学思想の観点から哲学的に分析し、講じてゆきたい。特にこの中国古代の医学思想の最も原初的な諸形態を、秦の宰相呂不韋の編纂になる『呂氏春秋』を直接的な資料として考究してゆく。

かくして、その医学思想の根幹をなすところの、中国哲学における独自の人間観・生命観を明らかにしつつ、現代医学における諸問題に対する、中国古代医学思想の意義にまで論及してゆきたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）

¥2,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）

¥2,500

日本文化史 I

廣瀬良弘

(P.24) 参照

美術史概説

中島 亮一

(P.25) 参照

日本宗教文化史

井上 順孝

日本の宗教文化が、近世から近代・現代にかけて、どのように変化したかを、社会の変化と関連づけながら述べていく。とくに新宗教が宗教文化に与えた影響に焦点を当てる。また日本宗教が海外に進出した場合、どのような変化をこうむるかについても述べる。こうしたテーマを通じ、日本の宗教文化が、どのような面で時代・社会の変化の影響を受けやすいか、また逆にどのような面が影響を受けにくいかに注意を払う。

教室の都合がつけば、できる限り視聴覚教材を利用して説明を行う予定である。

〔参考書〕井上順孝『新宗教の解説』（筑摩書房）

¥1,350

井上順孝『海を渡った日本宗教』

（弘文堂）¥1,550

日本仏教史

廣瀬良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに中世から近世にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに中世の宗教・一向一揆・無縁所寺院・寺院と地域社会・寺と檀家等について考察してみたいと思う。

【職業】

産業概説

前田幸一

<講義目的>

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

<授業内容・授業計画>

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方
3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3, 4, 5の項目に力を入れて授業を進めます。

<評価方法>

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）
宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田勇治

<講義目的> (要旨)

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

<授業内容・授業計画>

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心にして講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えた

と思っています。

<評価方法>

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）

¥1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前田幸一

<講義目的>

国内よりもグローバル化した対外との企業間の商品取引観点から授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

<授業内容>

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

<評価方法>

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
渋谷源蔵『貿易実務』同文館
藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商業】

職業指導

山田勇治

(P.17) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕 図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版（学芸図書）¥1,442

図書館学 II

源 昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルビ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルビ著『生涯教育』（東京創元社）
¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 8) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

I. 女性問題を捉える基本的視点

（ライフサイクル論、フェミニズム論争など）

II. わが国における婦人教育政策の歴史と現状

III. 国際的動向と女性学の発展

IV. 女性問題学習の実際

（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践、その他の活動・実践など）

V. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

青少年問題研究

前期：中野東禅
後期：和田謙寿

(P. 9) 参照

博物館学Ⅱ

竹内順一

(P. 23) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕適宜指示する。

社会体育Ⅰ

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということを動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育Ⅰ・Ⅱ」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

図書館学Ⅰ

山崎慶子

(P. 19) 参照

社会体育Ⅱ

古田潤子

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

(P. 23) 参照

人間の動きと道具との関係。
動きに於ける人と人との対話。
動きと呼吸との関係。
動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。
あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本
姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見
していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P.23) 参照

教育原理

(P.1) 参照

教育心理学
(教育方法論を含む)

(P.2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P.2・3)参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

高島秀樹

(P.8) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P.8) 参照

教育史

北村三子

(P.8) 参照

児童文化

湯山厚

(P.9) 参照

社会教育行政

牧野篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。この講義では、戦後の社会教育行政の基本理念をとらえ、社会教育固有のあるべき役割を見据えつつ、生涯学習体系の中であって、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方を考察したい。

成人学習論

牧野篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいいい難い。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P.20) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・所理喜夫
葉貫磨哉・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

教育原理

(P.1) 参照

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉 基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。充分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

インド仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南アジアー』（山川出版社）

奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅲ

三小田 敏雄

本年度は西洋文化史のうちローマ帝政時代の後期から中世ヨーロッパの成立、ビザンチン文化、中世文化の最盛期に焦点をあてて講義を進める。出席を重視し、成績はレポート試験によって評価する。

〔教科書〕未定

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、中世から近世にかけての文化について詳述する。

仏教美術

中島 亮一

仏教の発生から仏像の誕生、そして敦煌を経て竜門・雲岡へ、更に日本へと東漸した遺跡を眺め（スライドで）、仏像の様式の変遷を通観し、あわせてその底流にある信仰思想の歴史も考えることとする。

従来ともすると様式史偏重であった仏教美術を、精神史（特に信仰思想史）の面からも考察し、政治と仏教、風土と仏教、特に道教とのかかわりなど、広く深く仏教美術の遺産をとらえて新しい視点から考えなおしてみる。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥720

〔参考書〕久野 健著『仏像の歴史』（山川出版社）¥1,600

現代美術

宮崎 克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅美術

海老根 聡郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどっていく。

（毎回スライドを使用する）

美術史概説

中島 亮一

日本美術の特質と問題点について、各時代にまたがって道教・仏教・儒教あるいは神道からの要請又は影響から、さまざまに変容をとげた姿を再検討し、様式史・精神史の両面から古今の名作の真価を問いなおしてみる。特に東洋・西洋の名作との対比も試み、それぞれの模倣独自性も考察してみたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮

大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

倉田 芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島 武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年（山川出版社）¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年（山川出版社）¥11,000

考古学特講Ⅱ

高浜 秀

吉林・遼寧・内蒙古・甘肅など中国北辺の地域では、漢代以前には中原とは異なった文化が知られている。当時、ユーラシア北方草原地帯では、スキタイ系文化と総称される遊牧騎馬民族の諸文化が栄えていたが、中国北辺の青銅器文化はその東端に位置する重要な文化といえる。これは一方では朝鮮半島の青銅器文化とつながりを持つとともに、中原の文化にも大きな影響を及ぼした。講義ではこの文化について述べる。

考古学特講Ⅳ

飯島 武次

周文化の考古学研究、講義内容は極めて専門的なものにした。

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

地 形 学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容は最先端の知見を含む。

〔教科書〕 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拝など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

〔教科書〕 佐々木宏幹著『仏と霊の人類学—仏教文化の深層構造』（春秋社）
¥2,400

地 質 学

貝塚 爽 平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。教科書として貝塚著『平野と海岸を読む』

（岩波書店）を用いる。
〔教科書〕 貝塚爽平『平野と海岸を読む』（岩波書店）¥1,200

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1992』
(全社協) ¥2,800

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集 1992年度版』(老人福祉開発センター) ¥3,500

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応える専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』
(柴田書店)

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

老人福祉論

中野 いく子

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展

児童福祉論

高橋 重宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというものではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を

明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕高橋重宏編『児童福祉を考える』
(川島書店)

〔参考書〕開講時に指示する。

体の多元化を伴い進展している。平成5年度は、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎える。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』¥2,500 (中央法規)

〔参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

(全国社会福祉協議会) ¥2,000

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

心理学（福祉）

井上孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

社会学（福祉）

江上 渉

戦後日本社会の変動を人口、家族、産業、教育などいくつかの視点からデータに即して理解しながら、日本社会の特質を考える。（前期）

地域社会に焦点をあて、「コミュニティは崩壊したのか」というテーマに関する議論の展開を紹介して、今後の地域社会のあり方と可能性を考える。（後期）

地域福祉論

和田 敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

法学（福祉）

小林 弘人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

坂 田 周 一

社会福祉における計画の概念を明らかにし、計画策定の技法を実例に即して具体的に明らかにする。技法としては、人口推計方法、福祉ニーズ測定法、最適な福祉サービスの組み合わせを求めるデルファイ法、福祉サービスの効果測定法等の技法を中核としながら、これに関連して線形計画法、PERT法、シミュレーション等のオペレーションズリサーチの技法についても述べる。

〔参考書〕大村平著『ORのはなし』

（日科技連）¥1,450

その他必要に応じ適宜紹介する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔教科書〕大山博・武川正吾編著『社会政策と社会行政－新たな福祉の理論の展開を求めて－』（法律文化社）

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現今の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。

〔教科書〕田村健二『家族－社会の鎖・夫婦親子の鎖－』（金子書房）¥2,000

〔参考書〕田村健二監修『老人と家族の相談ケース集』1, 2（誠信書房）¥各2,200

医療福祉論

春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論

医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療の問題点

2. 医療領域のソーシャルワーク

歴史、意義、機能、方法、機関

3. 医療ソーシャルワークの実際

事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』
(ドメス出版)

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化，地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって，福祉に対するニーズは大きく変貌してきており，わが国の保健・医療・福祉の諸領域は，今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って，本講義では，人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき，健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに，学際的学問領域としての保健福祉学の概念，歴史，方法論を踏まえ，保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも，人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には，常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に，英国，日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法，方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉，その本質は何か，その現状は等々を考えるためにこそ，歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中 野 いく子

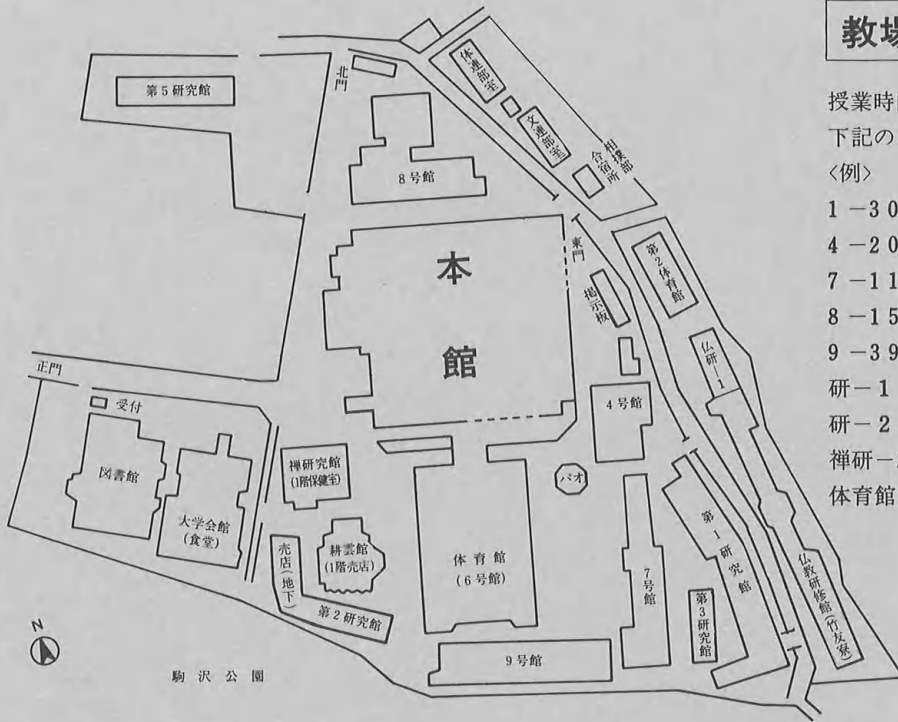
前半では，福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では，受講生の関心に基づいてグループを編成し，北欧やヨーロッパ大陸諸国，アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

駒澤大学の構内図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見てください。

<例>

- 1-301 本館(1号館)3階
- 4-204 4号館2階
- 7-110 7号館1階
- 8-150 8号館1階
- 9-390 9号館3階
- 研-1 第2研究館1階
- 研-2 第2研究館1階
- 禅研-201 禅研究館2階
- 体育館 体育館2階

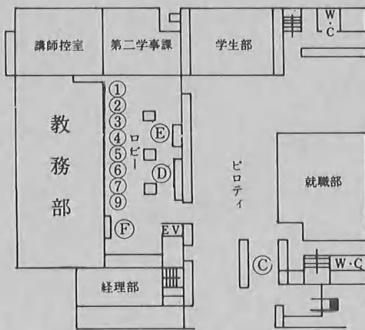
(ただし選択種目により第2体育館になる)

各事務室・掲示板配置図

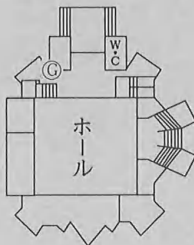
教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ③科目等履修生聴講生卒業証書
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
- ※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更)
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部
法学部・経営学部)

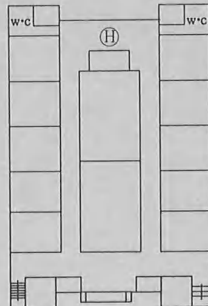
本館 1F



耕雲館 2F



体育館 1F



掲示

- ①第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項、教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項、その他
- ②第2掲示板(裏面)-臨時掲示板-
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- ③第3掲示板-臨時掲示板-
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- ④休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- ⑤授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- ⑥大学院・留学生関係掲示板
- ⑦国際センター掲示板
- ⑧留学生専用・海外留学掲示板
学外諸機関からの案内・募集広告等

